

様式第3号(第9条関係)

会議結果

次の附属機関等の会議を下記のとおり開催した。

附属機関等の名称	令和5(2023)年度第1回みよし市教育振興基本計画推進委員会		
開催日時	令和5(2023)年6月26日(月) 午後2時から午後4時30分まで		
開催場所	みよし市役所 3階研修室1・2・3		
出席者	<p>委員長：大村 恵 副委員長：春山 士朗 委員：渡辺 桜 大地由美子 平尾 章芳 宮田 安弘 山田 郁子 成瀬 優香 松本 大樹 林 晴子 宮崎 務 富樫佐智子 鈴木 康之 内田 弥生 近藤 憲司</p> <p>事務局：増岡教育長 富田教育部長 新美教育部参事 木戸教育部次長兼学校教育課長 鈴木教育部副参事兼学校教育課主幹 本松こども未来部保育課長 林スポーツ課長 橋本資料館長 伊藤給食センター所長 二子石生涯学習課長 大成学校教育課主幹 深谷学校教育課主幹 長谷川学校教育課主幹 酒井学校教育課主幹 多治見学校教育課主幹 金丸学校教育課副主幹 山内学校教育課地域連携担当 (計32名)</p>		
次回開催予定日	令和6(2024)年2月		
問合せ先	みよし市教育委員会学校教育課 電話：0561-32-8026 ファックス：0561-34-4379 メール：gakko@city.aichi-miyoshi.lg.jp		
下欄に掲載するもの	・議事録全文 ・議事録要約	要約した理由	
審議経過			
新美教育部参事	<p>本日は、ご多用の中、本推進委員会の方にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。会議を始める前に一つお願いがあります。本日のこの会については、会議録作成支援システムというものを使って、行わせていただく関係上です。発言される際には、マイクを使ってお知らせしますので、ご承知おきください。それでは定刻になりましたので、ただいまから第1回みよし市教育振興基本計画推進委員会を始めさせていただきます。はじめに、礼の交換をいたしますので、皆様、ご起立ください。一同礼。お願いします。ご着席ください。なお、本日ですが、みよし市文化財保護委員会代表であります鈴木睦子様から、本日ご欠席の連絡をいただいております。</p>		

	<p>りますので、ご承知おきください。</p>
新美教育部参事	<p>それでははじめに、本日ご参集の皆様へ、みよし市教育振興基本計画推進委員の委嘱状を交付させていただきます。</p> <p>委員を代表いたしまして、愛知教育大学の 大村 恵様、ご起立をお願いいたします。前の方へお進みください。</p> <p>教育長から委嘱状を手渡し</p> <p>それでは、お席の方へお戻りください。</p> <p>なお、大変恐縮ではございますが、時間の関係により、他の委員の皆様には、机上にあります封筒に委嘱状を入れさせていただきますいておりますので、お名前等、ご確認をよろしくお願いいたします。</p>
新美教育部参事 教育長	<p>それでははじめに、主催者を代表いたしまして、みよし市教育委員会教育長、増岡潤一郎が御挨拶を申し上げます。</p> <p>教育長 挨拶</p>
新美教育部参事	<p>それでは報告及び協議に入る前に本日が第1回目ということもありますので御一方ずつ自己紹介をお願いしたいと思っております。本日ご用意させていただきました、要項の1ページに、委員の方の名簿が載せてありますので、この一番から順番に自己紹介をお願いします。</p> <p>なお、事務局につきましては、お手元の座席表にて紹介に代えさせていただきますので、よろしくようお願いいたします。</p> <p>委員自己紹介</p>
新美教育部参事	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは続きまして、本委員会の委員長、副委員長を決めていきたいと思っております。</p> <p>要項の6ページに設置要綱がありますが、その第4条には、委員の互選により選任するとあります。</p> <p>どなたか、案のある方はいらっしゃいますでしょうか。</p>
近藤委員	<p>それでは平成26年から長年にわたり、本委員会の委員長をお務めいただいております愛知教育大学教育ガバナンス講座の大村 恵先生に委員長を、そして小中学校の校長会の代表の三好丘小学校の春山 士朗校長先生に副委員長をお願いしたいと思っておりますがどうでしょうか。</p> <p>挙手全員</p>
新美教育部参事	<p>挙手全員ということにより、委員長につきましては、愛知教育大学の 大村 恵先生に、副委員長につきましては、小中学校校長会の代表であります、春山 士朗校長先生をお願いいたします。それでは、大村先生、委員長の席にご移動のほどよろしくようお願いいたします。</p> <p>大村先生、一言御挨拶をお願いいたします。</p>

大村委員長	大村委員長 挨拶
大村委員長	<p>それではよろしくお願いたします。</p> <p>要項に沿って、進めさせていただきます。それでは要項2ページ目からということになると思います。最初の会だということで、今までの取組についての理解を深めようという趣旨だとお聞きしています。</p> <p>それでは、事務局の方からみよし市教育振興基本計画の概略についてご説明いただきたいと思います。よろしくお願いたします。</p>
事務局・多治見	<p>みよし市教育委員会学校教育課指導主事の多治見です。よろしくお願します。</p> <p>まずは、3番みよし市教育振興基本計画の概略について説明いたします。本市では、平成15年に三好町教育基本計画を策定し、教育環境の整備と充実を図ってきました。そして、平成26年、27年には、2か年をかけて、新たなみよし市教育振興基本計画、みよし教育プランを策定し、さらに、これまでの成果と課題を踏まえ、時代の変化に対応した教育のあり方を見直し、令和3年3月に、みよし市教育振興基本計画の改訂版を策定いたしました。本計画は、教育委員会が所管する学校教育及び社会教育の分野を中心に、すべての市民の教育に関わる計画となっています。計画期間が平成28年度から令和7年度の10年間と示されておりますが、この期間の中間見直しとして、令和2年度改訂いたしました。計画の基本理念は、学ぶ楽しさで、人と人をつなぐことで、目指す人間像は生涯にわたってみずからを磨き続け、仲間とともに、ふるさとみよし市を築き、よりよい時代をつくり出す人です。</p> <p>本委員会の役割といたしましては、みよし市教育振興基本計画改訂版が着実に実行されるよう、プランの進捗状況を本日ここにいらっしゃる全委員で確認し、より改善していくことです。本プランのPDCAサイクル、計画、実行、評価、改善という4段階の活動を繰り返し行うことで、継続的に改善していくことを目指しています。計画推進の流れといたしましては、要項の3ページをご覧ください。本年度は、本日の第1回と、令和6年2月の第2回を予定しています。本日が本年度の計画について検討し、2月に本年度の取組について評価を行うとともに、改善点を検討していきたいと考えています。</p> <p>来年度の令和6年度からは、策定委員会を組織し、再度、市民アンケートを実施するとともに、令和7年度には、新たな計画を策定します。そして令和8年度以降は、新たな計画を推進していくこととなります。以上、簡単ではありますが、本計画の概略及び委員会の役割について申し上げます。</p> <p>ただ今の説明について、何か質問や確認したいことはありますか。</p> <p>質問なし</p>
大村委員長	

<p>大村委員長</p>	<p>それでは続きまして、協議事項に入りたいと思います。 要項でいくと4ページからになります。 最初に、重点施策について、20の作戦プラスワンの、作戦10までご説明をしていただいて、そのあと、ご質問をいただきたいと思います。 そのあと11から20までを説明していただいて、ご質問を皆さんからいただくという形で、まずは、現在の計画の重点施策について、共通理解を作ろうということで進めていきたいと思っています。よろしいでしょうか。 それでは、学校教育課からお願いいたします。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>失礼いたします。 事前にお配りしております資料1と右肩にあります、こちらの資料に沿って説明をさせていただきたいと思っておりますのでご準備をお願いいたします。では、この後、この資料に沿って作戦の説明させていただきます。1ページをめくってください。作戦プラスワンの重点施策、みんなで育てるみよし市っ子の充実と周知啓発について説明いたします。本施策は、みんなで育てるみよし市っ子の理念を、家庭、地域、学校で共有し、それぞれの役割を果たしながら、子育てに関わっていくことができるようにするための施策です。みよし市教育振興基本計画の冊子がありますがそちらの24ページ、25ページに、お示しがしてあります。白い綺麗な冊子になりますが、こちらの24ページ、25ページでございます。こちらにみんなで育てるみよし市っ子の内容がまとめてあります。こちらは令和2年度の推進委員会で、みんなで育てるみよしっ子の内容について検討して、作成をしたものです。今年度のはじめに、みんなで育てるみよしっ子を拡充し、パンフレットを作成して、市内全小中学校の家庭に配布をしました。今後は、年明けの小学校の入学説明会にて年長の園児を対象に配布をする予定です。引き続きより周知できる方法を検討して、施策を推進して参ります。後程の協議でもご協議いただけたら幸いです。以上です。</p>
<p>本松こども未来部 保育課長</p>	<p>保育課です。 作戦1。安心して子育てができる環境を整えます子育て総合支援センターでは、交流相談活動の推進を重点施策として、平成29年4月に開所してから今日まで未就学児の親子が誰でも気軽に遊べる屋根のついた公園のような場所としてご利用いただいております。令和4年度に、子育てに関する相談内容を分析したところ、子供の発育発達、生活習慣に関する相談件数が一番多く、中でも、生活習慣では、食事に関すること、発育相談では、言葉、社会性に関する相談を多く受けていることがわかりました。 令和5年度から運営を民間事業者に委託することにより、安定をした相談担当職員の配置ができ、相談を受ける体制づくりが充実し、相談員のスキル向上とともに、未就学児の保護者への利用ニーズにも対応できる体制の充実を図っていきます。以上です。</p>

木戸教育部次長兼
学校教育課長

続きまして作戦2をお願いします。

働きながら子育てをする市民を応援します。重点施策は、放課後児童クラブによる子育て支援の充実となっております。この放課後児童クラブですが、全小学校8クラブ、16教室が設置されております。このうち、児童数が多くて、待機児童が発生しております児童クラブでは、希望者を児童数の少ない児童クラブへタクシー移送を行っております。移送事業の対象児童は、1年生から4年生まででありましたけれども、利用ニーズに応じまして、今年度後半からは6年生まで拡大を進めていくということを検討して参ります。また令和4年度中に開設を準備してきました放課後子ども教室を、今年度試行的に北部小学校、天王小学校の2校で開設いたしております。来年度、令和6年度には8小学校に拡大していく計画でございます。なお、放課後子ども教室ですが、学校だけではなく、地域全体で子どもたちを育てる場としまして、開設するものですので、子育て支援の策というわけではございませんが、放課後の子供たちの居場所として関連が深いものですので、本作戦に位置付けております。

続きまして、作戦3をお願いします。

子育てに役立つ情報をたくさん発信します。重点施策ですが、家庭の教育力向上のための啓発活動の推進です。啓発活動の一環としまして、広報みよし市の奇数月になります。家庭教育だより「はぐくみ」というのを掲載しております。これによりまして家庭教育に関する情報発信を行っております。来月7月号では、インターネットの安全な使い方について、家族で考えてみよう。というような内容で、SNSなどによるトラブルや犯罪に巻き込まれるなど、そうしたリスクを認識しまして、安全に利用できるように、家族で考える。そんな機会ととらえていただくような内容としております。以上です。

鈴木教育部副参事兼
学校教育課主幹

続きまして作戦4。子育てに困っている家庭をたくさんの手で育て、支えます。重点施策、困難さを抱える家庭に対する個別支援の充実について説明いたします。本施策については、相談員等関係者の連携協議会を開催し、多岐にわたる相談に対応できるようにしたり、相談機関の周知を図ったりして施策を進めて参りました。令和4年度は、チラシを配布することにより、数件ではございますが、保護者から直接相談依頼を受けることに繋がりました。令和5年度も、チラシの配布は継続していくとともに、年々増加する相談の需要に対応し、専門相談員の人数と相談時間数を増加し、多岐にわたる相談に、各係各課と連携を図りながら進めて参ります。また、学校と相談員が手軽に情報交換や情報共有できるように、オンラインシステムを使用して連携を図る方法を検討して参ります。

続きまして、作戦5。自ら考える力のつく楽しい授業を、みよし市12で実践します。重点施策、主体的対話的で深い学びを実現するための教員の資質向上への取組について説明いたします。本施策については、新学習指導要領に対応した初任者研修、教員2、3年目研修を実施したり、教科領域等指導員の複数配置によって、さらなる授業改善を進めたり、教

員の資質向上に努めて参りました。本年度以降も、ICTの活用をテーマとした研修の実施、教科領域等指導員の一部教科での複数配置、指導と評価の一体化の具体例の周知などに取り組むことで、教員の指導力向上に努め、主体的対話的で深い学びの実現を目指していきます。

続いて、作戦6-1。

子どもがICTを活用する力を育てます。重点施策。授業におけるICT活用の推進について説明いたします。本施策については、令和2年度に小中学生に配布した、1人1台タブレットや大型提示装置の活用を推進していくための施策です。

これまでも、ICT研修会を実施したり、ICTの活用事例集を作成したりして参りました。令和5年度は、これまでの集大成として、これまで蓄積した数多くの事例集を段階表にまとめ、学習用タブレットの活用推進を図っていきます。子どもがICTを活用する力を育てて参ります。

続いて、作戦6-2。

新たな学びを創造するためのICT環境を整備します。重点施策、新たな学びを支えるICT教育環境整備の推進について説明します。令和4年度は、教師用のタブレット台数を追加整備し、学習活動の充実を図りました。また、令和5年度は、モバイルルーターの試験運用を行い、校外学習や家庭への持ち帰りの有効性を確認しました。本年度も、各学校にモバイルルーターを貸し出し、どこでも学習活動が有効に進められるよう進めて参ります。

続いて、作戦7。

生きた英語に触れる外国語学習を充実させます。重点施策、ALT、小学校外国語対応非常勤講師による外国語指導の充実について説明します。現在、小学校で行うほとんどの授業で、ALTもしくは外国語対応非常勤講師が担任と協力して、外国語、外国語活動の事業を実施しています。中学校でも年間35時間はALTとのティームティーチングによる授業を実施しています。令和4年度は、小学生のイングリッシュキャンプを対面で実施しました。今後も、対象学年や規模を拡大するなど、生きた英語に触れる外国語学習の充実を図って参ります。

続きまして作戦8。

子どもの心を育てる教育を大切にします。重点施策、道徳教育の研究推進について説明します。みよし市の小中学校では、どの学校でも、特別の教科道徳の授業研究を盛んに行ったり、教育活動全体を通して、道徳教育を推進したりしてきました。また、情報モラルに関する授業実践の資料を蓄積したり、市教委主催の道徳推進教師研修会を実施したりしてきました。今後も人権、多様性の理解などを中心に、道徳教育をさらに推進していきます。

続いて作戦9。

たくましく、健康な子どもを市全体で育てます。重点施策。みよし市体力向上計画の推進について説明します。令和4年度は、いいじゃんスポーツチャレンジinみよしの8の字跳びの通信制大会を開催し、市内全小中学校が参加して行うことができました。また、同種目を市のスポーツ祭でも取り入れ、継続して8の字跳びに取り組むことで、運動に親しむこ

	<p>とができるようにしました。今後もいいじゃんスポーツチャレンジinみよしの種目を増やすなど、充実を図っていきます。また、今すぐできる簡単にできるウオークアップドリルや、運動遊び集の内容を検討していきます。</p> <p>続きまして作戦10。</p> <p>個別の支援が必要な子どもを応援します。重点施策、個別支援を要する子どもへのサポート体制の充実について説明します。これまでも、個別の教育支援計画、指導計画等を各学校で作成し、切れ目のない、充実した支援ができるよう、施策を進めてきました。令和4年度は、小学校へ入る前の支援を充実させるため、外国籍の未就学の子どもたちに対して、年間15回のプレスクールを実施しました。今年度以降も、プレスクールを継続するとともに、個別の教育支援計画、指導計画がさらに有効に活用できる方法を検討して参ります。</p> <p>以上説明といたします。</p>
大村委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、今ご説明いただきました作戦10までについて、ご質問等いただきたいんですが、いかがでしょうか。もしよければ私の方からいくつか質問させていただきたいと思えます。まず作戦2についてですが、働きながら子育てをする市民を応援しますということで、放課後児童クラブによる子育て支援の拡充ということですが、この御説明の中では、夏休み夏季休業中における待機児童が発生しているというようなことが起こっているというのは出ていますけれども、現在こうした待機児童が出ているのかあるいは要望がどのように出ているのか教えていただけませんかでしょうか。</p>
木戸教育部次長兼 学校教育課長	<p>失礼します。</p> <p>放課後児童クラブの今現状ですけれども、学校によって偏りがありますが児童の多い北部小学校と天王小学校、それから中部小学校でも少し、待機児童が発生しています。夏休みの応募の方はちょうど審査が終わりまして、こちらの方も7人ほどですね、入れなくて待機になっているお子さんがいらっしゃいます。</p>
大村委員長	<p>ありがとうございます。今、待機児童の扱いになっている子どもは、今後それを待機が解けるといいますか、入所できる可能性はありますか。</p>
木戸教育部次長兼 学校教育課長	<p>例年の状況を見ておりますと、夏休みまで、なかなか辞められるお子さん、児童がいないんですけれども、夏休みを過ぎますと、家で過ごすことができるようになったというような理由で退所される方が、ちょこちょこございますので、そうしますと、繰り上げで待機の子が入所できるという状況はあります。</p>
大村委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>また協議のところですね、皆さんご意見いただければと思います。</p> <p>二つ目です。作戦4についてなんですが、先ほど御説明の中で、困難さを抱える家庭に対する個別支援の充実で、相談が増えていて、相談員を拡充する必要があるというふうにご説明ありました。</p> <p>今どれぐらい増えているのか教えていただけますでしょうか。</p>

<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p> <p>大村委員長</p> <p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p> <p>大村委員長</p> <p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p> <p>大村委員長</p> <p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>か。</p> <p>実数については、今手元にはないのですが、状況でいきますと、すべての曜日に、教育センターの学びの森というところで、臨床心理士が相談員ということで対応しているのですが、今の時点でほぼ、予約が埋まっているという状態で、増やしているのですが、まだ需要に追いついていない状況が続いています。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。今のお話ですと、専門員、相談員を増やせば対応できるのではないかという見通しがあるという理解でよろしいですか。</p> <p>対応ができるとなかなか今までの現状でも、増やしていったという経緯はあるんですけども、増やしていくとそれに応じてどんどんまた新たなニーズが増えてきて、相談にかかる方も1回ですぐに解決というふうにはいかずに、何か月何年と継続して相談にこられている方がいるものですから、増えていくとまたさらに、要望も、この後、新たなニーズが生まれてくるのではないかなととらえております。以上です。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>そうした相談の内容とか、それに対する対応とかが、どこかの場で公表といいますか、市民に教えていただく機会がありますでしょうか。</p> <p>全市民の方に広くという場合、今のところはないですけれども、今まで不登校対策委員会ですとか、いじめ対策委員会といった関係の会議の中では、そういった実数などは報告をさせていただいている状況です。以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>今のお話ですと、主には不登校といじめというふうに理解しておいてよろしいですか</p> <p>それと、学校には行けているのですが、学校生活への適応ですとか、友達関係悩んだりですとか、学校に生きづらかったり発達の特性が原因ではないかというようにところで悩まれていたりする保護者の相談が多いというふうにも感じております。</p> <p>以上です。</p>
<p>大村委員長</p> <p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>作戦の8についてもちょっとお聞きしたいのですが、先ほど道德教育ということをお話をいただきましたが、その右ページの一番下に、その人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合という調査がございます。気になるのはやはり小学生です。令和元年、3年4年と、調査をしてきてだんだん減ってきているということが、やはり気になります。これをどう読むかという問題もあると思います。この調査をされた方たちは、減ってきている状況をどのように解釈されているか教えていただけないでしょうか。</p> <p>お願いします。</p> <p>要因は一つではないと感じておりますが、その中の一つとしてこれが令和元年から令和4年度でちょうどコロナに関わる3年間の間での推移でもありと考えております。コロナ禍で小学校中学校それぞれなんですからけれども様々な行事ですと</p>

<p>大村委員長</p>	<p>か、活動に制限ができて、なかなか思うような体験活動が行えなかったっていうところも、原因の一つではないかなと。学校行事ですといろいろな活動を通して、やっぱり子どもたちは人の役に立てたなど。そういったことでの喜びですか、教員側からのそういった価値づけや認める場が絶対数として減ってしまってきてることが、原因としてはあるかもしれないなととらえております。以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>最後にもう一つ、作戦10についてなんですけれども、個別支援ということで、特には、ここでは外国にルーツのある子どもたちということで、愛知県もプレスクールは力を入れてるんですが、現在年間15回ということなんです、率直なところ年間15回で足りているのかどうか少し気になります。今日は実はここに来るまでの間に、みよし市も外国にルーツのある子どもが今増えてますっていうお話をいただきました。この15回という回数の問題だけではなく、そのプレスクールにどれぐらいの子どもたちが参加できているということが気になるんですが、現状で、この15回というのをどう見ているのか聞かせていただきたいんですが、いかがでしょうか。</p> <p>はい。お願いします。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>15回という取組をしていて先日、本年度第1回のプレスクールを行ったところ、大体10名程度のお子さんが、親御さんと一緒に参加をしておりました。15回という数が適切であるのかというところは、まだ今後検討の余地があるかなと感じます。やればやるほど、成果は上がるというのは、明らかではあるのですが、どの程度かというところは今後も、活動を進めながら、検討を重ねる必要があると思います。</p> <p>あともう一つは、プレスクールに参加をさせていただける、参加できる子たちは保護者が意欲的で危機意識をもってるんですけども、逆に参加をしていない家庭についてはうまく周知がいないという家庭もあるんじゃないかなということもありますので、そういったところの調査や検討も必要ではないかというふうに考えております。</p> <p>以上です。</p> <p>ありがとうございました。</p>
<p>大村委員長</p>	<p>また、今ご説明いただいた点を協議の場でも少しご意見いただければと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>委員の皆さんからよろしいでしょうか。</p> <p>はい。ありがとうございます。また後から出てきましたら、協議の場でもご質問いただければと思います。それでは、後半の作戦11から20までご説明いただきたいと思います。それでよろしくお願いします。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>お願いします。</p> <p>では、作戦11をご覧ください。作戦11、一人一人がよさを発揮できる学校づくりをします。重点施策、小中学校における学級指導体制の充実について説明します。現在みよし市では、国や県の施策に加え、市独自の施策として、小中学校の全学年で35人学級を実施しています。また、小学校によっては、中高学年で教科担任制を実施しました。今後は、みよし</p>

<p>木戸教育部次長兼 学校教育課長</p>	<p>市型30人学級の検討を行うとともに、小学校における教科担任制も進めていきます。</p> <p>続きまして作戦12をお願いします。</p> <p>安心安全快適な学校環境づくりを進めます。重点施策として、大規模改修による学校施設の整備です。みよし市内の小中学校の校舎につきましては、建築後、40年近く経過してきております。これを順次大規模改修を行っておるところです。令和4年度までに、三吉小学校の大規模改修工事が完了しております。また現在は南中学校の大規模改修工事を行っておりまして、令和4年度から令和7年度までの実施の予定としております。大規模改修工事の中では、老朽化した建物や設備の耐久性を高めるだけでなく、それに合わせてバリアフリー化、トイレのドライ化、照明のLED化など、機能の向上もあわせて図っております。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>続きまして作戦13、地域とともにある学校づくりを進めます。重点施策みよし市版コミュニティスクールの設置について説明いたします。令和4年度は、三好中学校をモデル校として、北中学校や南中学校にて地域コーディネーターを配置し、地域学校協働本部設置の準備も進めました。今後は、全小中学校がコミュニティスクールへの移行を完了するとともに、地域学校協働本部の設置も進めて参ります。以上です。</p>
<p>二子石生涯学習課長</p>	<p>作戦14、サンライブでいろいろなことが学べるようにしますについて説明をさせていただきます。サンライブは、生涯学習を開催しておりまして、アンケート等によりまして、ニーズに合った講座を開催できるように努めております。また、学ぶ機会をふやすために、夜間や土日曜日の講座の開催も行っておるところでございます。さらに、サンライブ以外にも、生涯学習講座を受けられるよう、おかよし交流センターでも、本年度から講座を開始しているところでございます。ここで、成果目標の話をさせていただきますと、令和7年度には、延べ3000人が生涯学習講座を受講することを目標としているところ、令和4年度の実績が延べ3866人となっております。これは記載誤りでございまして、実際のところは、1440という数字でございました。申し訳ございません。実際のところは、令和元年、3年の数字を見ますと、個人の方の数、複数の方が受講される場合もありますが、個人の方の数で記載がされておりました。令和4年の数字は3866ではなく、1440ということで訂正をお願いいたします。</p> <p>続きまして作戦15、市民が発信する生涯学習活動を応援しますの説明をさせていただきます。</p> <p>この項目につきましては、自主的に活動をいたします。生涯学習団体の支援といたしまして、各団体の活動成果の発表の場の提供や、継続して活動できるように応援し、また、活動内容の市民への周知を実施しておるところでございます。目標としましては、令和7年に70団体としておりますけれども、令和4年度時点では52団体ということで、こちらの方の時間なんですけれども、コロナの影響によりまして、まだ令和4年度のところでは、まだ活動を自粛している団体がまだ幾つかみえるというようなことで、昨年度の学習発表会だとか、合唱コンクールだとかあったんですけれども、過去出演</p>

<p>林スポーツ課長</p>	<p>しておりました団体さんに声をおかけしてありますがまだ本格活動してないというようなご返事でした。</p> <p>これからコロナ後という形になりますので、団体活動も再開していくのではないかと予想しているところでございます。以上です。</p> <p>スポーツ課長の林です。</p> <p>作戦16、市民がいろいろなスポーツに親しめるようにしますについてでございます。全国的に子どもの体力の低下、スポーツを行う子と行わない子の二極化の傾向が見られます。また本市のアンケート調査では、運動習慣のない成人が50%以上おります。市民が生涯にわたり健康な暮らしを送るために、生涯スポーツの推進の必要性が高まっております。</p> <p>重点施策につきまして、総合型地域スポーツクラブの育成で現在、市内に三つの総合型スポーツクラブが活動しております。総合型スポーツクラブは地域の人の運営により、その地域の住民に対して運動スポーツを行う機会を提供しています。市は引き続きこのクラブの活動支援を行って参ります。成果指標の総合型スポーツクラブで活動した人数につきまして、令和4年度は35,959人でございます。本年度は、休日の部活動地域移行について、総合型地域スポーツクラブの関わり方、連携強化を図って参ります。以上です。</p>
<p>橋本歴史民俗資料館長</p>	<p>歴史民俗資料館長の橋本です。</p> <p>続きまして作戦17、みよし市の歴史や文化を広く市民に発信しますです。重点施策は、歴史民俗資料館の展示の充実となります。資料館では、平成28年度に展示室をリニューアルいたしまして、企画展示と常設展示を完全に分け、猿投古窯などの本市の歴史文化など、常設展示を充実させました。また、展示会のほかにも、体験講座や出張事業などの各種イベントも開催しております。本年度は年4回の展示会のほか、小学校での出張授業として実施する灰釉陶器づくり体験や、一般の皆さんを対象とした土器石器づくりの体験観光協会が主催の福谷城跡で開催されたイベントへの協力、さらに、石川家住宅の活用などを通して、みよし市の歴史や文化に触れていただく機会の提供に努めて参ります。今後につきましては、資料館あり方検討会からいただきました意見などを踏まえ、みよし市の歴史に関心を持ってもらえるような展示や体験などの手法を研究するとともに、将来にわたってみよし市の歴史や文化を繋いでいくための施設づくりにもつなげていきたいと考えております。以上です。</p>
<p>二子石生涯学習課長</p>	<p>作戦18、読書好きな市民が増えるような環境づくりをしますについて説明をいたします。平成28年7月に開館いたしました中央図書館におきまして、社会情勢に応じた特別特集展示、小さいお子さん向けのおはなし会、各世代を対象とした読書講演会、学校等で読み聞かせをさせていただいております。ボランティアの方向けの養成講座を開催しまして、本に親しむ機会をつくり、市民の方への読書への関心の周知を図って参りました。また、小中学校用の貸し出しの書籍を、学年に応じて複数用意いたしまして、依頼があれば、配送できる体制を整えておまして、令和5年度につきましては、学校への配送日を増やし、貸し出しが円滑に実施できるよう</p>

<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>に対応して参りたいと考えております。さらに令和5年度につきましては、本を読むことが好きなお子さんの割合を増やすために、小中学生が使用しております、タブレットを利用しまして、手軽に電子書籍を読むことができる方法について周知を図っていく予定でございます。以上です。</p> <p>続きまして作戦19、みよし市のことが大好きになる学習をします。重点施策、ふるさと学習の推進について説明いたします。令和3年度に、副読本みよしを改訂しました、二次元コードを掲載するなど、学習用タブレットを活用して学習できるように工夫をいたしました。サンライブをはじめ、様々な場所に副読本みよしを置き、市民に手に取っていただく機会を増やします。小学校の総合的な学習で、ふるさとの未来について考えることや、みよし市に赴任した初任者の教員研修にも利用するなど、さらなる活用方法についても検討して参ります。</p>
<p>大村委員長</p>	<p>続きまして作成20、地域の協力、教育力を集め、学校づくりと地域づくりを支えます。重点施策学校ボランティアをきっかけとした地域教育力の結集について説明いたします。令和4年度も、長期休業中に地域の力で学習指導を行うため、みよし未来塾を夏休み、冬休みに実施してきました。夏休みと冬休みを集め、合わせて延べ284人が参加いたしました。また、地域と学校との連携した活動も増えてきました。今後は、みよし市未来塾の継続とともに、部活動の地域移行化に向け、コミュニティスクールや地域学校協働本部の設置し、検討を行っていきます。以上です。</p>
<p>富樫委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、作戦11から20までについてご質問等をいただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。</p> <p>はい。お願いいたします。</p>
<p>橋本歴史民俗資料館長</p>	<p>文化協会の富樫と申します。</p> <p>作戦17のページの右側の重点施策の順番の令和4年度達成状況のところの一番上の、資料館あり方検討会を5月と7月に開催し、今年度末に提言としてまとめる予定とありますが、この今年度というのは、令和4年度末にまとめられてあったのでしょうか。ちょっと質問したいと思います。</p>
<p>大村委員長</p>	<p>今のご質問ですが、あり方検討会ですね、令和4年度の達成ということですが、会議の方で3年、4年と開催いたしましたので、4年末で一応まとめて提言の方をさせていただきますものにつきましては教育長と市の方にも、報告の方はさせていただいておるような状況です。以上です。</p>
<p>橋本歴史民俗資料館長 大村委員長</p>	<p>はい。令和4年度末にまとめたということでもよろしかったですか。</p> <p>はい。その通りです。</p> <p>その他いかがでしょうか。私からまた、いくつか質問させていただきたいのですが、一つは作戦14になります。</p> <p>サンライブでいろいろなことが学べるようになりますということで、今年度、出前の講座を開催するというので、非常に大事なことだと思いますが、今後こうした出前講座を行っていく計画があるかどうか。特に今後コミュニティスクールとか、地域学校協働ということが進めば、学校に出前をして</p>

<p>二子石生涯学習課長</p>	<p>いくということが、考えられるといいなというふうに思っていますが、この出前に向けては、それを増やしていくとか、或いは当面はこれだけにするとか、そういったことがどういうふうに検討されているのか、教えていただけませんかでしょうか。</p> <p>生涯学習推進課長の二子石です。</p> <p>とりあえず、おかよし交流センターで、今年度、サンライズ以外で開催の講座回数としては15回を考えております。5年度につきましては、さらに15足しまして30でその次はまたさらに15足してというような形で今考えておるところです。今の学校の部活の地域移行という形の中で、本日出席いただいております、文化協会の富樫会長にも、ご協力をいただきまして、文化系の部活動につきましては、今年度、三好中学校と北中学校の校長先生の方にもお話をさせていただきまして、それぞれ2回ずつ、試験的な移行というような形で、文化協会の方を講師といたしまして、各種部活動の移行ができるような、試験的にやってみまして、問題点等の洗い出しをしていき、来年度につきましては、中学校4校すべてでもやれるようなというような礎を今年作っていきたいというふうで考えておるところです。</p>
<p>大村委員長</p>	<p>はい。ありがとうございました。</p> <p>出前講座が広がっていくということで、そういった計画なんだということで承りました。ありがとうございました。</p> <p>今の部活移行については、文科系ということでお聞きしましたが、スポーツ系についてもお聞きしたいと思ひまして、作戦の16、ないしは20に関わっていたと思ひますが、現状でどのような計画を立てていらっしゃるか、教えていただきたいと思ひますが、いかがでしょうか。</p>
<p>林スポーツ課長</p>	<p>スポーツ課の林です。</p> <p>作戦16でスポーツに関係するところ、そして総合型スポーツクラブに関係するところでございますが、部活動の地域移行はすごくたくさんの課題がありまして、土日の移行だけでも非常に難しい状況でございます。今、土日にみよしクラブというところで、部活の地域移行が進められておりまして、令和5年6年7年の間に、土日は、地域移行するような目標をもっております。まずは、指導体制がある程度整っているみよし市のカヌー協会はじめ、柔道については本年度、地域移行をやっているという状況でございます。総合型スポーツクラブにつきましても、やはり今のこのみよしクラブの体制が、みよし市教育委員会が責任をもつという形で、その指導員は、すべて会計年度任用職員という身分で活動しております。法人格を取得した団体でしたら、法人に任せる形、委託する形で部活動を行っていきたいと考えておりまして、総合型スポーツクラブでは三つのうちの一つは、法人格を有しております。このままできる種目から委託をしていきたいなというふうには考えております。また、みよし市カヌー協会も法人化を進めておりますので、法人化されるときは委託をしていくというふうに考えております。以上です。</p> <p>つけ足して、学校教育課からお願いします。作戦20のところに関連していくと、コミュニティスクールですとかそう</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	

	<p>いったところも挙がってきているわけなんですけども、現在のところ、4中学校すべての中学校でコミュニティスクールが立ち上がって動き出しているというところです。ただ、ここでは学校づくり、地域づくりというところで環境整備ですとか、草刈ですとかそういったところでの協力・呼びかけをして進めていただいていることが多いです。今後さらにとなった段階で、例えば部活動の指導員ですとか、外部指導者という話が出てくるかなと思うんですけども、まだ学校での実情もそれぞれでありますので今後、学校の方針に沿ってですね。そういったところについても話題にして進めていくことになるのではないかなというふうに考えております。以上です。</p>
<p>大村委員長</p>	<p>はい。ありがとうございました。部活動の地域移行について、コミュニティスクールとの関連で少しお話をお聞きしたかったのは、中学校の卒業生、高校生や大学生、或いはそれよりも上の方ももちろんなんですけども、その部活動に協力していただけたというような体制ができればとすれば、それはその学校単位で動くしかないというふうに思っていました。そうした動きがあるかどうかちょっとお聞きしたかったです。はい。ありがとうございました。それでは他いかがでしょうか。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>作戦19のみよし市のことが大好きなら学習をしますということで、重点施策のふるさと学習の推進というのがあるんですけども、多分3年生か、よくわかりませんがコロナの前は多分どこかの施設を子どもたちが実際に施設見学したと思うんですけども、その学年がコロナに当たっていた年度は、行けていたかどうか聞いていないので、はっきりしていないんですけども、もし行けていないとすると、その子たちはずっと、一生、その施設に関わることなく卒業してしまうような子が何人かいることになり、興味ある人はいろんなところに行くと思うんですけども、その辺のフォローは実際にはどうだったのか教えてください。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p>	<p>学校教育課鈴木です。 確かにコロナの間というのはそういった校外学習で出る機会もなく、というふうで学習を進めていくとその上で、先ほどご紹介しました、副読本みよしというのが、かなり大きいのかなと思います。QRコードでも、資料が見られるということで何とかカバーはしているところですが、やはり先ほどおっしゃられた通り、実際に自分の目で見たりするっていうことは何事にも代えられないものかなとただそれをどこかで、授業の中でカバーしていくというのは、現実なかなか難しいかなというところがあります。学校によってかもしれませんが、地域学習ですとか、キャリア教育という中でもう一度地域を見つめ直す機会があるところでは、そういうところをやってこうという学校ではそういったフォローというんですかね。そういうこともできるかもしれないと思いますがちょっとそこについてはなかなかフォローしきれないかな、難しいかなというところが現状です。以上です。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>その関連として別に小学校で行く、行かなかったけれども、その行っていない学年があるとしたら、中学校3年までである</p>

ので、どっかでその学年に応じた見学の仕方はあると思いますので、市のバスのいろいろ都合もあると思いますが、やはりみよし市の子は全員どこかでその施設は行っているというのが私は現体験として必要だと思いますので、施策でふるさと学習の推進とうたってあるので、やはり落ちたところはどこかでカバーしておいた方が、ふるさとを愛する子どもたちは育つんじゃないかなと思っていますので、またお願いします。以上です。

大村委員長

ありがとうございました。

ご意見として、承りたいと思います。その他、ご質問ご意見いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、みんなで育てるみよしっ子、教育を推進していくための協議を行うということで、最初に事務局からご説明をいただきたいと思います。それではよろしくお願ひいたします。

事務局 多治見

よろしくお願ひします。

前のスライドを使いながら、説明させていただきたいと思います。本委員会の役割、計画の推進の流れについては先ほど口頭で申し上げた通りです。

それでは、まずは、改めてみよし市教育プランについて説明させていただきます。基本理念を学ぶ楽しさで、人と人をつなぐとし、令和2年度の間見直しでは、目指す人間像を生涯にわたって、みずからを磨き続け仲間とともに、ふるさとみよし市を築き、よりよい時代を作り出す人と設定し、みよし市の中だけでなく、広い世界で活躍できるような人材の育成を目指しています。このような人間像の実現のために、この三本の柱が設定されています。その中の1、次代を担う子供をみんなで大切に育てるの中では、知・徳・体のバランスのとれた子どもを、一人一人の個性を大切にしながら、家庭地域学校が手を取り合い、育てていけるように、委員の皆様協議をしていただいております。その結果、みよし市教育プランの24、25ページにある通り、みんなで育てるみよしっ子としてまとめ、家庭地域学校が子供たちへの働きかけができたらいいなという取組を例として示す形となっています。キーワードなんですけども、教育という言葉が二つあるんですが、特にこの「ともいく」というふうに、あえて呼ばせていただきますが、「ともいく」を大切にしていきたいなと考えています。

「ともいく」については、家庭地域学校がバラバラであるのではなくて、ともに手を取り合い、連携しながら、子どもの教育に関わることを行っていくことを通して、大人もともに成長し、育っていくことを意味しています。しかしながら、事前にお配りしました資料3のアンケート結果を見ていくと、11番、みよし市の教育全体の充実度にあるみよしっ子を共育、協育で育てることを重点施策として進めていることを知っているかという設問に対して、知っていると回答した割合が、市民20%、保護者18%という結果となり、家庭地域学校が一体となって、「ともいく」を進めていくという面で、まだまだ周知が足りない部分もあり、大きな課題が残っています。

次に15、教育に関する情報の周知という項目のアンケート結果を見ても、学校の教育方針や、子供の様子などの情報を、十分に得られているかについては、あまり得られていないと回答した割合は、微増しています。学校と家庭がともに同じベクトルで子供たちを育てていくという面で、学校の様子を周知していく方法を考えていかなければなりません。

また、家庭教育に関する情報で利用したことがあるものとして、みよびよ！を選択した市民の割合は、非常に低い状況にあります。昨年度のこの委員会の中の協議の中では、みよびよ！に関して、とても評価していただきました。もっと周知できれば、困っている家庭が助かるのではないかなと感じています。市のホームページ、子育て児童のページを利用している方が増えてきていることから、様々な取組を周知していくヒントがここにあるのかなと感じています。

続いて、R4のアンケート結果から、市教育委員会に望む専門的な支援としまして、左側の黒字のR1年度の数字で、右側の赤字がR4年度の数字になるんですけども、不登校ひきこもり、それから発達の問題、特別支援教育に対する専門的な支援がやっぱり必要だという声が増加していることがわかります。先ほどの専門的な支援内容に加え、後期計画に向けて、市が取り組むべき重点施策としましては、幼児から小中学校までのすべての子どもたちに対する心の教育の充実、それから個別の支援が必要な子どもたちに対する教育の充実の割合が増えてきていることから、家庭が抱えている、個に応じた支援方法のあり方について考えていかなければならないかなと感じています。これこそ、幼稚園保育園、小中学校の連携をさらに深めて、まさに「ともいく」の視点がキーワードになるのかなと感じています。

家庭地域学校がともに支え合って、みんなで育てるという目標に迫るには、みよし市版コミュニティスクールの活用も一つのヒントとなるのではないかなと考えています。三好中学校をモデル校として取組をスタートさせ、他の小中学校に今広めている段階ですが、ここで、R4年度からの取組の一部を紹介いたします。

南中学校の実践です。

この校区にはトヨタ自動車の工場や農地が広がっています。3世代家庭も多く、これまでも数々の連携が行われてきました。コーディネーターが選出されたことで、活動の幅が広がり、窓口の教頭先生の負担も少なくなっていると聞いています。続いて、三好丘小学校と三好丘中学校の事例です。多世代の子ども食堂を7年前からスタートし、小学校と連携しながら進めています。また、三好丘中学校では、中学校入学時から不登校だった欠損家庭生徒への支援を関係機関と連携し、家庭丸ごと支援を行ったことで、生徒は寮のある高校に進学し、学年2位の成績をとるなど、頑張りを見せているという話を聞いています。また、民生委員以外に、保護司とも連携し行っています。みよし市内で、コミュニティスクールの設置については、昨年度は、三好中、北中、南中の三つの中学校と三好丘小学校合わせて4校で設置いたしました。

学校ごとに、地域の特色を生かした取組を行うことで、

<p style="text-align: center;">大村委員長</p>	<p>子供たち同士の連携が深まるだけでなく、地域も家庭も教員もともに育ち、強い繋がりが生まれ、みよし市の大きな財産になっていくことが期待されます。本日は、「みんなで育てるみよしっ子～共育～」を通しての考え方を周知し、家庭を支えるために、学校、地域ができることはという協議テーマで、ご協議いただきたいと思います。個別の支援が必要な子どもたちが増加傾向にあり、その対応に苦慮しているのは、学校だけではなく、家庭も地域も同じなのではないかなと感じています。小学校入学前の就学相談会では、就学相談件数も多くなっている実態や、市教育センター「学びの森」での専門相談員への相談件数も増加している実態もあります。このことから、家庭を支えていくことは、今後大切な視点ではないかと考えます。ともに助け合っていくという、「ともいく」の考え方を周知し、そして学校、地域が家庭を支え、連携していくためにできることについて、本日の会でご協議いただき、ご意見をいただければと思っております。</p> <p>短い時間になりますが、この後、A B Cそれぞれのグループでご協議ください。各グループの協議内容につきましては、指導主事がホワイトボードにまとめさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>はい。では、それぞれのグループに指導主事の方が入っていただき、進めていただけるということですので、ぜひよろしくお願いいたします。それでは、4時10分になりましたら、また全体会に戻ります。よろしくお願いいたします。</p>
<p style="text-align: center;">(グループ協議)</p> <p style="text-align: center;">鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹</p> <p style="text-align: center;">山田委員</p>	<p style="text-align: center;">< Aグループ協議 ></p> <p>時間にも限りがあるのでそれぞれの立場から、いろんなアイデアですかね。こんなことできるんじゃないかとそういったことも出していただければいいですし、こういった他の立場からこれできるんじゃないかなとか、ご自分の立場ではそれ以外でも何でも結構ですので、いろんな提言をいただくとありがたいかなというふうに思います。また、さっきいろいろプランのことについて、もうちょっとここ聞きたかったな。そこから新しいアイデアも出てくるかもしれませんので。4時10分までということですのでいろいろご意見いただければと思いますよろしくお願いいたします。</p> <p>発信ってすごく大事だと思っていて、学校もホームページ、本校、私は、ちょっと苦手なんですけど、得意な先生がいるもんですから、毎日更新をしてくれていて、校長もきずなメールで週1回やってるんですけど。やっぱりそうやって学校側からいろいろ発信していく。あと、今、YouTubeとかいろんなものもあるんだけど閲覧数が伸びるのって定期的に更新が多いものなので、やはり更新してないと新しい情報を得られないから、今ってその時間をどれだけ使ってもらうかが大事なので。時間を使ってもらうためにどうするかだと思うので、これも見てもらうためにどうするかっていうことが必要なかなと思います。更新をしたりとか、あと自分もみよびよ！って何かかなと思ったけど、今いろんなお店とか、チラシとかにQRコードがついていて、結構すぐ簡単に取り入れられたりそれをやるとどんないいことがあるかっていうことが簡潔に、や</p>

<p>渡辺委員 新美教育部参事</p> <p>渡辺委員</p>	<p>はり三つぐらいしか覚えられないので、いっぱい言われてもよくわかんないということがあるのかな。自分がちょっと気になったのが、作戦3の中の広報みよし。家庭教育で「はぐくみ」っていうのがあって、なんか読んだけど、文字が多くて。何だろうこれっていうのは思ったので、何かQ&Aみたいになっていると、やはりよくある相談とか、よくある質問とかを、それに対しては簡単にで。その中にこういう相談機関がありますよとか、こういう施設がありますよっていう紹介がQ&Aで2号に1回ぐらい出てると行ってみようかなとかちょっと調べてみようかなっていうふうになるのかなとは思いました。以上です。</p> <p>すいません私も不勉強で「みよぴよ！」っていうのは、みよし市のホームページから見られるのですか。</p> <p>「はぐくみ」は広報みよしとは別かな。</p> <p>少しでも興味をもってもらうために、特集号みたいな形でやって今こっちの方にも話に来ていてどういう話題にするか。皆さんに興味をもってもらえるかっていうのをちょっと、これ学校教育課にも関わっていくので今年は工夫して、出していこうというふうに取り組んでいます。</p> <p>ありがとうございました。アプリを入れると見られるみたいな。なるほど。私は愛知県の前まで生涯学習課、教育委員会の生涯学習課今なんか愛知の学びの推進課ってなったんですけど、その委員をさせていただいていて、やはりこの周知のところ、あそこもいろいろやってるのに、皆さん全然知らなくて、今日の話に出た不登校のホームフレンドもやっていて、そこも多分ここと繋がるといいんだらうなっていうこと思うんですね。必ずしも地域とか学校がすべて賄うのは無理なので、ホームフレンドのその大学生が、その不登校児のおうちマッチングができれば、定期的にお話を聞いて好転していくっていうことはすごく実績としてあるので、その辺も含めて、多分今の、私はやってないんですけど。ハッシュタグでインスタグラムとかがやはり情報が引かかるのかなと思うと、例えばみよぴよ！もアプリを取り込んでというと、一つそこが必要なのですね。そうじゃなくて、みよし市役所とか学校教育課とかが、インスタグラムをやっていますか。</p>
<p>鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹 渡辺委員</p>	<p>やっております。</p> <p>じゃあやりましょう。多分それは大きいかなと思います。私も今子育て支援センターをやっているInstagramを始めました。日進市から委託を受けているので、やはり知ってもらおうっていうところで、保育士さん若いんですけど、そこでやはりInstagramだねっていうのでハッシュタグ何とかで調べると引かかってくると。それを見ていただけるんで先ほど言ったように、やっぱり更新して行って、定期的に見ていただくこともすごく重要なのかなっていうことを思います。</p> <p>不登校発達のつまずきというのは本当に保育園のときから就労までずっと続くんだらうなと思うと、放課後等デイサービスとの連携ってどうなってますかね。</p>

鈴木教育部副参事兼
学校教育課主幹

放課後デイサービスとの連携は、今ちょうど始まり出したところですが、ただまだ十分に学校と事業所が繋がっているかというところではないというところで、今現状としては放課後デイサービスを利用する子のお迎えに来てそこで引き渡してというところで終わっているのではなかなかその情報共有だとか、お互いにそれを情報活用してっていうところまで行っていないのが今、先週も特別の連携協議会であったんですけども。そのあたりをいかに情報共有していくかっていうところを今検討して動き出していこうかと言っているところです。

渡辺委員

はい。いいですか。

私は放課後等デイサービスと保育園、あと小中高の連携というところで研究をしていて、今放課後等デイサービスってものすごい数が増えていて、嫌な言い方するとすごくいい商売になる。だから質がものすごい悪いところもあるんですね。ただ困っておけばいいわというところもあれば、私が関わっているところはもう本当にあの子たちのもっている力を子ども会議というのを通して自分たちで企画をしたりでも企画をするには体験をしていないといけないから、いろんなところで体験をお金なんかで買うとか、どっかみんなで行くとか計画するっていうのをして、議長を決めてっていうようなことをやって、彼らの自立みたいなのにつなげていくっていうのがあるんですけども、その辺が一生懸命やるところやっていたらやっているほど、学校との連携の足りなさをすごく嘆いているので、ここら辺をやはり強化していくと良いのかなとか多分学校と地域なんだけれど、役割としては、本当に社会資源をふんだんに学校も多分知ってなきゃいけないだろうし、そこにつなげていく役割なのでもしかすると地域にすごく助けてくれる人が、実際は山ほどいるのかなということを思いました。まとめて言うと、アート子育てネットワークですね、県が企画している子育てネットワークも地域にたくさんいるはずで、子育てネットワークさんが、結局一生懸命研修を受けて力量アップしているのに、全然私たちなんかお呼びがないからやることないみたいなのが実態としてあるからそこら辺の情報も、多分、この自治体の、学校教育課とか生涯学習課とか子育て支援課とかと繋がる必要があるのかなということを思います。発達のつまずきも外国籍の方も、本当にスポーツと音楽は本当に国境を越えて、すごく伝わるものがあるかなっていう気がするんですけど私ちょっとその辺り聞きたくて何か、ここ数年のところではこういう効果があったよとかということがあればお聞きしたいなと思うんですけども。

鈴木康之委員

私は教育者じゃないのであれなんですけど、立場上から言うと私みよし市のスポーツ推進21年。それから、地域総合型のなかよしクラブで、21年ぐらい、テニスを先生として教えていますけど。やはり親が忙し過ぎますね。それとすごく波があって、兄弟で来るけど今日お兄ちゃんが中学生ぐらいになると、下の子はもう来なくなっちゃうと。そういうものが多くて。これから部活動がどんどんなくなってくるので、結構地域総合型に行きたいっていう人もあるし、やはりスポー

鈴木教育部副参事兼
学校教育課主幹

ツもやらないとね、なかなか、ただ勉強、ただそれだけではいけないのでやはりスポーツを楽しんで、親も一緒に来たときに、親も一緒に楽しんでもらうっていう。親子で楽しんでもらうというそれができなければ、極端なこと言っても子どもさんだけ預かりますと、2時間やっているの、お父さんお母さん、たまには体休めて、喫茶店でも行って、のんびりしてくださいとか、買い物をしに行ってくださいと。ところが今、子どもたちが、私たちの頃母親が大体面倒見ていたので、お父さんっていうのはあんまり、お父さんお父さんと言われたけど、今の子どもは、女の子すごく「お父さん、お父さん」って言うんですよ。それだけよく面倒をお父さんが見てるんですよ。だから「行ってください」と言っても、「パパ、ここにいて」と。体育館の外に出ていかないと、何やってるかお父さん、暇だからやっていると、そういう状態なんでちょっとスポーツの立場から言うと、もっとスポーツができるような環境が、できるといいなと思います。

ありがとうございます。

ちょうどこの土曜日から部活動の夏の大会が始まって、各地でいろんな種目で、試合が進んでいるところで、見させていただくと、本当に子どもたちはもちろん頑張ってるんですけども指導者も声援を送ったりだとか保護者の方もすごく熱い声援を送ったり、見守っていただいたり本当に子どもを中心にいろんな人たちが集まって、感動を共有してたりだとか、成長を喜んだりする場があるなど。そこにすごく今、部活動のことって、何かどっちかって言うとネガティブな感じで受けとめられてる方が多いんですけど、実際見てみるとすごく、そこに価値が大きいなっていうのも感じていてそうなってくるとそういった、スポーツクラブの方ですとか、或いは高校で行くと部活動だとかそういったところの、存在の価値っていうのは本当に一方でもすごく高まっているなんて求められてる部分があるかなと。実際に三好高校さんですと、年間小学校中学校でいろんなところに、生徒さんが出向いて行って、ラグビーの指導をしてくれたり、或いはマラソン大会の運営に関わっていただいたりして本当にいろんなところで支えていただいています。みよし市民としてはありがたいところなんですけど、今実際やっていたのはいろいろあるんですけども、さらにこんなこととかこんなことできないのかなというものがあれば教えていただきたいんですが、いかがでしょうか。

平尾委員

ありがとうございます。なんか持ち上げていただいて申し訳ないですけど、先ほどの子どもたちの部活動の問題もそうですし、それから本校の高校生の状態もそうなんですけど、今日すごくしっくりきてるのが再三言われてる「ともいく」。まさにそれで、主体が子どもたちだとか、実際にスポーツやる子たちなんだけども周りも一緒に育っていくんだっていうのはね。すごくその通りだと思って。特に幼稚園、保育園や小学生に高校生教えるっていうのは高校生にとってはすごくいい勉強の機会なんですよ。だからそういうことを体験すると、一方的に変な上から伝えるだけじゃなくてやってく中で自分もいろいろこう吸収できるっていうのはすごくいい経験

鈴木教育部副参事兼
学校教育課主幹

宮崎委員

だと思うので。彼ら彼女らが今度大人になったり、親の世代になったりした時にね、そういう経験が生きてくると今度一緒に活動できないかなっていうのをすごく期待してる部分です。だからそういう面でも良い活動をさせていただける機会をたくさんもらっているなと思っています。

そうなってくると、今三好高校でという話なんですけど、みよし市だと、カヌーがあって、そこで実際にもう今もみよしクラブっていうところで、かつて、生徒、部員として活動してた子が、卒業して社会人になってまた今回指導者っていう形で戻ってきてくれている子がかなりいて。もう40歳ぐらいの子たちが来てやってくれるというのはあります。だからすごくその20年30年と長いスパンをかけて、カヌーの世界では、おっしゃられたような、人が育っていくという環境ができてきてるんだなというのを実感したところです。カヌーで育った宮崎先生、何かいいアイデアがあったら、感想も。

自分は本当にカヌーを中学生からやって、高校もみよしクラブで、3年間やらせてもらって6年間、お世話になって、こういう立場になって教えたいっていうのが一つあったので、そのテーマにもあった、作戦のどこにもあったけどそのみよしが好きになるっていうか、そういった部分では自分はかなりみよしが好きで、みよしに戻ってきた人間なんですけど。もうちょっとこう広いテーマになっちゃうかもしれないんですけど、アンケートをとってる結果があってその中にみよしが好きだっていう、小学生中学生にアンケートをとってたと思うんですけど、その根拠って何なんだろうなっていうのがわかんなくて、自分の場合は、みよしにカヌーがあるからみよし戻ってきたっていう根拠があるんですけど、その好きだって答えた小学生とか中学生は何を根拠に今好きになってるのかなっていうのが、僕はちょっと気になって、聞きたいなって。そこを聞くことによって、みよし市が、どんな魅力があって、それをもっと発信していけば、好きになるか増えていくのかなっていうのが、説明を聞きながら思っていたところなので。何かこう用紙にこれっていうのもただそれは個人差があるので。その人にとっていいものは別の人にとっては別に響かないものだったりすると、カヌーもそうだと思うんですけど。なんかそういう万人受けするものをむしろかきいとは思うんですけど、でも、何人かがみよしのここが好きっていうのをこういろいろ集めてって、そこをこういろいろ発信していくと、みよしが好きだっていう子どもが増えたり、でも子どもが好きになるも大事だと思うんですけど、多分親が好きじゃないと、子どもが好きにならないと思うんですよ。みよし、やだって言う子どもが大人に育った時に、じゃあみよしで子育てしたいかっていうと、うーんっていうところはあるので、やはりその親がみよしで子育てしたいっていう、環境を作っていくことはすごく自分はみよしで3人子どもを育てているんですけど、大事なことかなっていう。話が変わっちゃうんですけど、保田ヶ池の上に公園ができたじゃないですか。あれができたらすごく僕よかったなっていうのは、もう子どもが大きくなったんであんまり行くことないんですけど、本当に子どもがちっちゃいときは大府に行っ

たりとか、もう本当に何か大きな公園に行かないと、なかなかいけないというところがあったので、やはりきれいで大きい公園ができていくと、今見るとすごいたくさんの親子が、昨日も遊んでいましたし。何かそういったところで、あとこういうポスターとかなんかそういうところで発信するののも一つ、こういう「ともいく」だとかみよしの施策を伝える上では大事じゃないかなと思うし、それこそ子供を連れて、育児に不安を覚えてるお母さんとかお父さんが行ったときにそういうのがあるんだっていうことを知ることができる。多分一人で行ってなかなか声かけることって難しいんですけど、でも、なんかそういうのを知るだけで、そういう取り組みがあるんだってことを知って何か調べたりとか、先ほど渡辺さんも言われたみたいに今、本当にSNSの時代なので、僕はあんまやってないんでわかんないんですけど、妻がよくやっているんで。本当にインスタとかすごっていうことを言っていて、本当ハッシュタグってめちゃくちゃ天才だねって言っていて。なんかそういうのを、特にその悩みを抱えているお父さんお母さんって、外に出るのも多分今難しくなってるって考えると、今僕が言ったことは基本的にアクティブな方かなっていうとこなんですけど、やっぱり、スマホは多分触っていると思うんです。そういった方って外出れないけど、そういった人が見る、SNSで知るっていうことはすごく大事じゃないかなっていうのは聞いてて思ったので。魅力は感じてるんですけども、もっともっとなんかたくさんあるけど、それを発信していったらいいのかなというふうになんかちょっと具体的な案はないんですけど、あるといいなっていうも思ってます。

山田委員

好きな理由っていうのがすごく大事だなって自分も思っていて、何か強制的ではないんだけど、なんかそういうのを、募集して、キャッチフレーズにして、そういうので押し出していくというのも、何か一つの大きなムーブメントみたいな起こすと、多分、人間って何かよくわかりやすいものにみんな惹かれるっていうのがあると思うので、何か今みよしってすごいいろんないいことやってるし、いろんないい場所あるんだけど。何かよくわからないっていうか、すごい深く調べてって、市役所に電話したりとか、調べる方法が結構まだ昭和だったりするので、やはりでもそれはこれだけやるためにはその専門家にきちっと入ってもらって、ある程度お金かけてやらないと、中途半端なことになるのかな。さっきの部活動の地域移行のことをすごく心配している。ただそのカヌー協会とか柔道のものについては、ある程度進んでるっていうのはこのカヌー協会っていうのがもともとある組織で柔道も多分そういう組織があるところと連携することで続いていく、例えば個人的にコーチを呼んできてやるのはその人がやってくれる間はいいんだけど、その人が何かできない理由ができたなら、そこで途切れちゃうんです。だから、それをすごく心配している、なんかやはり、こういう一対一でやっていくよりは、その団体とその市全体のその、各学校4校の、例えばバレーボール部とか、サッカー部とか野球部とかと、その連盟だったりとか、あと三好高校さんも大事なみよしの本当に学校と、なんかそういうところ協力してやっていけると。

鈴木教育部副参事兼
学校教育課主幹

続いていくためにはどうしたらいいのかなっていうのをすごく心配しているという意見です。

ちょうど先週の土曜日に、スポーツ課の主催で指導者講習会があってそこで、部活動の地域移行について説明をさせていただく場を作っていただいて、そこで、学校教育課からも説明しておられた指導者の方も地域のスポーツ指導者の方ばかりなので、こういったところは大丈夫なのかだとか。責任とか補償の仕方だとか、子どもたちの安全な活動ができるようにするためには何が必要なのか本当にいろんなことを出していただいて、自分事っていうか、地域の方もこれからそういうふうになってくんだっていうことを知っていただく機会がもてたなど。あとはこちらにも課題をいろいろと出していただいたので、今後の地域移行に向けて、これをやっていかないといけないなと思って、まさに持続可能にしていけないと、しりすぼみになってしまって、スポーツに親しむ子どもたちがどんどん減っていきってしまうっていうそういった恐れも感じたところです。どう切り込んでいけば地域移行ができるかっていうところは難しいんだけど、コミュニティスクールだとかいろんなところも使いながら、あとスポーツクラブの方にも協力を仰ぎながらやっていかなくちやいけないなっていうふうには感じているところです。

山田委員

いいじゃんスポーツチャレンジとか、あと8の字跳びの大会があって、うちの学校もすごい頑張ってたんだけど、今子どもたち一人一人にタブレットがあって、例えば縄跳びの二重跳びが何回跳べるようになったよって何かお友達が承認するでもいいんだけど、そういうふうにしてそのチャレンジカードって昔あったじゃないですか。あれをタブレットでやれないかなっていうのを。市の中で、ほかの学校の子とちょっと競ったりすると、なんかすごいやる気が出たりするかな。やはり先生たちもやりたいけど、そこまで手が回らないっていうのが現状で。いろいろ紹介はしてくれてるんだけど、授業の中ではそれをやってみようってなると、多分その他のことが気になってなかなかできないけど、タブレットがせっかく一人一台あるので、なんかそういうのを使って繋がってその都度記録が見れるのはすごくいいなと思ったので、あれを個々にやったらすごく頑張るかもしれないなんて、鉄棒とかあの一人でやれるスポーツがあると頑張れると思います。8の字とかだといいんだけど。

あと、やりたくないって子もいるんです。その集団で行動が苦手な子がいて。そうしたらやれよとか言って、トラブルが増えるという心配もあるので、そういう子たちも個で競い合ったりするとすごい燃えるので。なんかそういうのがあるとありがたいなと思いました。

鈴木教育部副参事兼
学校教育課主幹
平尾委員

いろんなところのアイデアありがとうございます。

いろんなこう工夫されて。さっきの「みよびよ！」じゃないですけど、ちょっと入口だけ見てみたんですけど。やはり今こういう時代なので、いかにそれを皆さん認知してもらってかっていうので。例えばスタートもされてるのかもしれないですけど、市内の産婦人科の待合室にQRコードが貼ってあっ

	<p>てここから入れますよとか、こういう情報がありますよっていうことをやると、もうそれこそスタートのところからそういう情報が手に入りやすいとか、それから先ほどSNSは実はちょうど先週、私はちょっと県外へ行って、よその高校といろんな意見交換してきたんですけど、その場で必ずうちのホームページを開くようにして、ここにこういう情報がありますよって説明すると、今度次からこう見てもらえるかなとかそういうちょっと計算をしながらやってるので、そういう場面もちょっとこう工夫されるといいのかなと思います。すでにやられているのかもしれないですが、例えば市の職員の方でちょっとそういう情報は、ハッシュタグ付けて、あげてもらおうとかということだけでもかなり。1桁だったですよ。4%~6%っていうこの数字はちょっと驚異的というかびっくりする数字なので。ちょっとそういうちょっと草の根的なところもありますけど、そういう中身がいいものであればねそれざっとこう広がってくなって気がするので、ちょっとそういう工夫もあるといいのかなということを感じました。</p>
山田委員	<p>本校はみよしの陶器づくりで、歴史民俗資料館の方に来ていただいて、何回か連続で3年生が図工の授業でやらせてもらってるんですけど。5、6人来てくださって、本当にとてもしてきな作品ができるんです。そういうふうなことを体験すると、やはり子どもたちしてみよしのものを自分たちも体験して、ちゃんと体験させてもらう。お話聞くと小学生はあんまり好きじゃないけど、何かものを作ったりとか体験したりするとすごく喜ぶ。棒の手保存会の人にも来てもらって、地域の人たちがその棒の手を見せてくれて、それを見ても実際棒の手保存会で入った子どもたちもいるので、図工の作品に棒の手の様子を書いたりとか、それは完全に好きだになっていう。なので、そういう体験がたくさん紹介してもらえるとありがたいなと思います。</p>
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	<p>実際にカヌーの方もスポーツ課の方でやってもらっていて、そこからっていう子もいたりしますので。やはり体験って何事にも勝るものはないのかな。</p>
山田委員	<p>中学生、高校生や大学生とか意見聞いたらもっとあるというか、そうしたら、すごくいいアイデアをもっていて、いい発表があるかなと。</p>
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	<p>みよしが好きだって言って、大人も結構、漠然と好きだって言っている部分もあり、愛着をもっている理由はどこかって言われると、意外と語れなかったりする。そもそもみよしは、どんなものがあるかっていうのを知らなかったり、さっきの公園の話もそうですけど、三好公園の三好池のすぐ隣のところにすごい公園があるのを知ってる人はほとんどいなくて。実はすごくいいところがあるんです</p>
山田委員	<p>これを市販できないかという話があって、他の市町で出版しているから調べただけど、ちょっと難しくてなかったんですけど、副読本みよしのダイジェスト版のパンフレットみたいになってくるとか、そういうのも地域の人に知ってもらうためにはいいのかなと。</p>
鈴木教育部副参事兼 学校教育課主幹	<p>ある学校で海外の人とコミュニケーションをとるときに、みよしって何があるのと聞かれて子どもは何も答えられずに</p>

	<p>困ったという。そこからみよしってどんな市なのかということと ころを調べ始めた学年があったんですけども、やはり知って くと、知れば知るほどの愛着もわいてきてというのがある もんですから。やはりふるさと学習というのは、みよしを好 きになるうえですごく大事なことだなんてことを感じまし た。</p>
事務局・酒井	<p style="text-align: center;">＜Bグループ協議＞</p> <p>学校教育課の酒井です。よろしくお願いします。共育を周 知し、家庭を支えるために、学校地域ができることとはとい うテーマでありますけども、忌憚のないご意見を出してい ただけたらなというふうに思いますので、よろしくお願いします です。どこかの時点からでもいいからそれぞれの立場もある と</p>
宮田委員	<p>南中の宮田です。なかなかですね、必要な生徒や家庭もあ るんですけど。校区委員会なんかで情報共有はするんですけ ど、そこからですね、家庭の方へ一歩踏み込むっていうのは なかなか難しい。地域の方が。ですので、私たちは地域から そういう情報ももらって、学校側がその情報を役立てるとか、 あと市の関係機関とか、児相であったり、警察であったり、 あと豊田の発達センター、そういうところからやっぱり情報 を得て、学校が中心に動くっていうのが大きいかなというふ うに思っております。なかなか校区委員会で情報を出しても、 直接家庭がいきますよってことは言われるんですけど、入り 込めないっていうのは苦しいところですね、逆に知りすぎて いるからっていうことで、ちょっと今、負の面なんですけど、 先ほどのコミュニティスクールなんかでも出たように、授業 で今どんどん入っていただいています。そういう中核になる方 がいろんな農家であったり、トヨタ自動車によって私が今南 中学校区になるものですから、そういうところの情報をくだ さって、今まではどちらかという、学級や小さな学年単位 でやってたんですけど、今度は学校に広げるため、学校清掃 活動にをいれようとか、そういうことが広がっていますの で、特に先ほども出たんですが、梅とりであったり、栗拾い であったりそういうものやってくるもんですから、今 度お世話になった方に、梅ジュースをまたお手紙と一緒に添え てお返しをしようとか、そんなようなことで、地域だけに甘 えるんじゃないかと、私達は、地域の要望も取り入れてお返し していこうという考えを持っていますし、何かすごい授業な んかでは、特産物の大根であったり、そういうものも知る機 会をいただいたことがあって大変助かっています。</p>
事務局・酒井	<p>今地域から学校に入ってくるものを生かしていくという、 それをまた返していくというような話になったのですけれど も、今それぞれの立場から例えば学校にこういったことができ ないかというふうに、こういうことで協力できるみたいな 感じでどうですか。</p>
林委員	<p>保育園ですけど、なかなか今、地域の方と連携できていな いと思っていますので、学校さんの方が、地域の方のところ を聞いている模索しながらやっているということだった んですね。また保育園の方にもそこから情報を得させてい</p>

	<p>ただいてまた、地域との繋がりを大切にしていけないといけないなというところで、今お話は聞いたのですが、なかなかもう本当に昔は地域の老人クラブの方で、子どもたちのお手玉とかけん玉とか教えていただいたりとかそのような取組のこともあったかなというところですけど、本当にはなかなか特にコロナ禍になってからはいっさい行えていないという形で、民生委員さんとかとの関わりもあまり持っていない状態になってるので、またそういった形の方から情報を得て取り組んでいきたいなというふうに思いました。</p>
事務局・酒井	<p>今宮田校長先生の方から、中学校でやったことを今度戻していくってというような話もあって、梅をとって、梅ジュースを保育園にも、保育園が飲みたいかどうかは分からないけど。そんなことはまた繋がっていくことにはなるのかなというふうに思っております。それで戻していくっていうのは可能なんですか。</p>
林委員	<p>なかなか実際にそういう中学校の生徒さんが来ていただくとか、北中さんだったら3年生の子たちが保育園に、この時は自分たちで考えたおもちゃを作ってきてくださって子どもたちに披露して下さったりとか、そのような活動はさせていただいていたので、そこから地域に広げていくというところも保育園としても課題かなとは思っています。</p>
大村委員長	<p>林さんにちょっとお聞きしたいんですけど、今、次世代のという形で国が打ち出してますけども、通年制保育園について、みよし市ではどんな状況かを聞いてもいいですか。</p>
林委員	<p>現状、やはり受け皿が定員は決まっているので、やはりそこで優先順位、上からいくと、どうしてもその本当にそこまで受け入れができるのかどうかというところを現状思ってます。</p>
大村委員長	<p>今の人手が足りないと言われていの中でさらに仕事を増やそうということですけど。ただ、保育園の機能としては今まで働く、保護者のための子どもの発達を支援するというそういうことでしたけども、それをもっと広げてその地域の人たち、みんなの子育て支援の拠点にしていこうというそういう、機能をもっと変えていこうっていう施策だとは思ってます。そのこと自体はいいことなんだけどもということがありますけども。でも実際その地域の中では、働いてないけども、それはやはり保育して欲しいんだというニーズというのがあるのかなと思っていまして。</p>
林委員	<p>市内で、6年になるんですけど、一時保育を実施させていただいて、月2回利用ができる状態になっているのですが、今後その回数を増やしていくところで今保育課の方は検討していると聞いてます。本当に今、うちの園で育休退園したお母さんが、もう急に子ども2人というところで、もう本当に気持ちがいっぺんに落ちちゃってというところで、本当にいろんな保育をそのまま継続して欲しいと言われたんですけどちょっとそこはやっぱりルールっていうところがあるのでというところで、一時保育が利用できないかというところで私も動かさせていただいて、そこで今月2回利用できる園が見つかったのでお母さんもちょっとそこで安心して。家庭保育に前向きに取り組めたというところや、支援センターの</p>

	<p>紹介とかそこら辺で子育てというところ、お母さんも前向きというところでしたんじゃないかなとは思っていますけど。</p>
大村委員長	<p>みよし市では、育休をとると退園しなくちゃいけないですか。</p>
林委員	<p>2歳では育休退園はないんですけど、まだ1歳に関しては、育休退園というところで、やはり家庭で保育というところの大事なところもありますし、それをやはり支援センターの方、一時保育で補って行って支援ができないかという形で、今取り組んでるところです。</p>
大村委員長	<p>退園してもまた確実に戻れますか。</p>
林委員	<p>ちょっとそこはまた審査になりますね。入園手続きをしてもらってという形で。</p>
増岡教育長	<p>育休退園を0にしていこうよという話が出てましたよね。</p>
大村委員長	<p>みよしがどうかわかりませんが、例えば、双子や三つ子の家族が、働いてなくてもそれだけでも大変。やはり保育園の支援が欲しいとか、あと多子ですね、兄弟が多いこともそうですよね。そういう時に特に多子の場合には、愛知県が、ちょっと調べましたけどヤングケアラーという形で、その上の子が下の子の面倒見るっていうことがかなり多いわけです。愛知県は全国的にも多いんですよ。16%ぐらいなんですよ。だから普通にみんな下の子の世話をして、それが特に大変だと思う。部活もできないということになっちゃうんですがそれほどでもないという程度で、何とかね、やれてるところは多いんですけども。なので、そういう土日にお姉ちゃんに面倒見てもらってるとか、そういった状況というのはどうですか。</p>
林委員	<p>園に関しては、やはり保育時間が長いのでお母さんの時間に合わせてという形で、とりあえず保護者の方の送迎というところを依頼しているもんですから、早い時間をお姉ちゃんが迎えに行っているかということもちょっと保護者の方というところで、どうしても保護者が病院に通ってとかそういう時はご相談くださいという形で、ご兄弟じゃなくて保護者の送迎というところで依頼をしてるので、そこまでは思っております。調査自体はしていないですけど。</p>
大村委員長	<p>今、みよし市ではそういったワンストップの相談先はあるんですか。</p>
増岡教育長	<p>福祉の窓口というものがある。</p>
大村委員長	<p>では、その窓口にご相談すれば、相談乗ってくれるわけですね。</p>
林委員	<p>そうですね。はい。緊急性が高ければ、定員に関係なく入園という形にはなるかなと思います。</p>
大村委員長	<p>そこは例えばお母さんが、お父さんもそうなんですが、精神疾患だとか、そういった場合にも、大丈夫ですよ。そういったサポートもそこで受けられるんですよ。</p>
増岡教育長	<p>福祉の窓口から例えば、こども未来部の中のこども相談課に話がすぐ行くので、指導主事もこの要保護児童対策地域協議会・自立支援協議会に出て、情報交換して、そういう家庭に対応してくると思いますが、逆に不登校のお子さん、ヤングケアラーかどうかは、子どもに聞いたらゼロだったんです</p>

	<p>が、県の例の15.7%の中に、むしろ、みよしの子はいないんですけど、でもこれって、ヤングケアラーではないのかと、例えば学校来れてない疑いのある子は数人いるので、特に外国籍のお宅で、お父さんお母さんが夜帰ってこないんですよ。どうやって生活しているのだろうという子はやはりいるので、そういうことは要保護児童対策地域協議会や自立支援協議会の中で話題にしてもらって、市役所の職員が、様子を見に行くっていうことをしてますね。</p>
<p>大村委員長</p>	<p>先ほど質問させていただいたその相談件数が増えてるっていうのはその部分もあるんですか。</p>
<p>増岡教育長</p>	<p>あそこに出ていた相談件数は学校の中に、県は小学校にスクールカウンセラーを4週に1回来るように4校に1人、中学校は毎週1回来るようにというのが、みよしは市費で、小学校も週に1回来てもらうように、臨床心理士がついて、全部の学校に。だけど、そこでも相談がしたくない人としきれない人が学びの森や、市役所の2階でやってる相談におみえになんですけど、去年までは昼間は週4回しかフォローできなかったんですけど、毎週、月から金までの週5回、夜は週1回、フォローしてやっていることで、数は多分すごい数です。スクールカウンセラーと専門相談員を合わせると2000とか3000とかそんな相談件数じゃないかなと思います。年間で。ただ特出するのは、実は学びの森に来てる子は19歳とか、結局引き込みりになっちゃう、小学校、中学校ぐらいから始めて、とにかく卒業しても来ればいいよと言って、フォローをさせてもらってらっている。何とか社会に出るようにね。別に30歳になって社会に出てくれればいいので、そういう特徴はあると思いますが。</p>
<p>事務局・酒井</p>	<p>ひと区切りさせてもらって、違う視点からでどうでしょうか。内田さんどうですか。</p>
<p>内田委員</p>	<p>そうですね。中学校の職場体験の時に、図書館での体験を希望した生徒さんは、例えば私たちがやってるお話会に参加してくれて、見学してくれているということがあったんですけども、もしそういうチャンスがあったら、ちょっと前もって練習してもらって、童歌を実践してもらおうとか、その時に一緒に童歌と一緒に遊んでもらったんですけども、紙芝居を1回やってもらおうとかそういうようなチャンスもその子にとってはすごくいい勉強になると思いました。また、小学校、中学校読み聞かせに行ってますが、前回の時に、大村委員長が子どもたちも読む機会があるとすごくいいねというお話だったと思いますが、今後はやはり子どもたちとも一緒に読み聞かせをやるというのを何とかできないかなって。部活で、文科系の部活として、読書クラブとかそのような読みきかせクラブとか、もし学校で取り組まれることがあったら、私はぜひボランティアに行きたいなと思っておりますが、まだどういうふうに接触していいのかわからないので、そういう話きたら喜んで行きたいと思います。緑丘小学校がPTAの読み聞かせのボランティアでお母さんたちのミルクィポケットというグループがありますが、そちらのPTAのお母さんたちとそれから先生との話し合いで、お昼の給食を食べてる時間に、お話を読むという、ミルクィポケットの給食の時に話を読む時</p>

事務局・酒井	<p>間を作っていたらいいですね。それがとてもいいなあと思って。他の学校でも、お昼の放送に読むとていうのは、ぜひ広まるといいなっております。その中で、エピソードですけども、昼の放送でたまたま私が読んだお話が気に入ってお母さんにあの話すごくよかったという話をしてくださったら、そのお母さんがこの日に読み聞かせを読んでくれた人は誰かいませんかと言われ、それは私ですと言ったら、話はとても気に入ったって言ってましたと言われたので、とてもうれしくてその本を紹介して、貸して差し上げたりとか、そういうような交流になりました。結構、そういう短い時間の放送から流れてくるお話でも、心に留めてくれる子がいるんだなあと思って、すごく手応えを感じました。</p>
内田委員	<p>今の緑丘小学校の話は、ボランティアの読み聞かせの団体さんになりますが、例えば今、図書館協議会の方では、例えばみよし市内にそういった団体さんがどれぐらいあると把握されていますか。</p> <p>図書館協議会では一切タッチしていなくて、各学校でのPTAが作ったボランティアのグループで、私も緑丘小、三好丘小、北中、三好丘中、黒笹小と、他にもお手伝いに行ったので、三吉小、中部小ともう南以外は全部経験したんですけれども。全体では150人とか200人ぐらいボランティアさんがいて、今は全部の小中学校に話し会の読み聞かせのボランティアグループがあります。前回でも私も言わせていただいたんですけども、そういうのも実態をちゃんと把握して、図書館とも連携が取れて、日本語の読み聞かせ、読書推進っていう大きな枠の中で、学校教育課の中央図書館も一体となって取り組めるとまたもっと進めるなと思います。</p>
事務局・酒井	<p>今自分が思ったのは、中部小学校でアップルミントさんという団体が来ていたんですけども、例えば給食中に読み聞かせをすると結構いいアイデアだなと。いつも朝来ていただいて、朝の時間に読み聞かせというのをやっていただいたんですけども、こういう取組を団体とかで共有できると。今の読み聞かせに限らず、他の事に関しても、そういったことができると、またここで集まった方々でさらに例えばさっきの話ではないですが、ここは保育園の方にもつなげられるなと思いました。中学校から保育園だとか小学校だとか、今度図書館の方だとか言えばもうどの方向にもいきませんか。小学校、中学校、保育園、幼稚園というのが、もう少しうまく連携できる機会が。</p>
内田委員	<p>連携ぜひして欲しい。というのは小学校、中学校だけじゃなくて、図書館での話し合いもやっているんです。図書館の話し合いというのは、日曜日の2時からと、水曜日の10時30分からと年代を分けて、日曜日のお話し会は、幼稚園から小学校低学年ぐらいまで対象にした普通のお話し会。そして、水曜日の10時から10時半からやってるのは、未就園児対象のお話し会なんです。だから赤ちゃんから2歳児ぐらいまで幅広く来てくれるんですけども、そこで童歌とか、手遊びとか小さい子向けの絵本とか紙芝居とか、すごく準備してやるんですけども、この前来たのが1組の親子だけ。すごくもったいない状況になっていて、何かいろいろな子育て支援セン</p>

	<p>ターとかで、イベントが重なっちゃうと、みんなそっちに行っちゃって、そういうのを連携できるといいなって思っていました。</p>
事務局・酒井	<p>普段、保育園さんはそういった読み聞かせはどうなんですか。</p>
成瀬委員	<p>うちの幼稚園はあんまり多分受け入れていない。先生がやってくさっている状況なので、あんまり聞かないですね。外部の方やボランティアの方が来てくださってるというのは聞かなくて、でもいつも話してくれる先生から聞くのと、または違う人から聞くのは、また違う受けとめ方があるんじゃないかなと思うので、そんな機会があったらぜひいいなと思います。</p>
事務局・酒井	<p>今の感じだとこういろいろやってるんだけど、集約がされてないというか情報が共有されていないというのがちょっと現状としてはあるのかなと見えます。</p>
内田委員	<p>全部がバラバラというか、島があちこちにあって繋がりが無いみたいなところですね。連携がとれるといいなと思います。</p>
事務局・酒井	<p>できることが結構ある割には、その連携がうまくいってないという。</p>
内田委員	<p>読み聞かせて結構幅が広くて、科学の絵本とかもいっぱいあって、大人でも知らなかったことが知識を得られたりとか、それから道德の面でもすごくいい本がいっぱいあるので、そういうのをやはり活用したいなと思います。</p>
事務局・酒井	<p>あと5分ほどあります。学校関係、保育園関係の繋がりというのは、図書館とか言われてたんですが、家庭を支えるという面ではどうでしょうか。先ほど中学校は、関係機関からしか情報が得られないとかっていう話をしたんですけども、幼稚園や保育園はどうですか。</p>
成瀬委員	<p>家庭側からだと、先生たちがすごく忙しいのがわかるからあんまりあれはどうなんですか、これはどうなんですかって聞けないというか、そういうのはすごく感じるころはあるので。</p>
事務局・酒井	<p>先生が忙しいので、逆に。本当は聞きたいんだけど聞けないという現状で。</p>
成瀬委員	<p>こういうのはどうですかというのも言いづらいし。なんかもう少し、小学校の先生も中学校の先生も、働く時間が、すごく長くて、随分問題があって、最近ちょっと変わってお手紙とかいただくことがあって、いろいろ努力してらっしゃるというのはすごく見えてきたんですけども、でもやはり子どもの親として見ると、本当に先生たちはどの時間でこういう指導案とか作ったりとか、計画を立てたりとかしてるんだらうとすごく思うので、先生たち頑張ってくださいっていうこと多いですね。それこそトイレトレーニングの話とかもあったんですけど、やはりうちの子たちも3人子どもがいるんですけど、一番上の子しか入園までに、終わらせられなくて、下の子2人はもうごめんなさいという状況、状態でおむつ入れて通わせて、取れるまでに少し時間がかかったと言ったりして。なのでごめんなさいという感じですね。</p>
事務局・酒井	<p>何が原因というか突っ込んでいけないのでしょうか。</p>
成瀬委員	<p>やはり親のなんでしょうね。すごく親も焦るんですよ。</p>

事務局・酒井	<p>何とかね。もう間に合わせなきゃ間に合わせなきゃってすぐ一生懸命になるんですけれども、どうしても焦ってしまっ て。でも昔も焦りはありましたね。</p>
成瀬委員	<p>これは、3歳で。そこに何かこういうのがあるといいなと いうものとかどうなのでしょう。</p>
林委員	<p>なんか、まだ他の何かそういう集まりがあったとしても、 まだ取れてないんだと思われるのが嫌というものもあるから多 分行かないお母さんがほとんどじゃないかなというのもあり ますし、ちょっと難しいですね。</p>
	<p>つい最近、びよちゃんルームというところでちょっとお話 させてもらったのは、やはりすぐに何歳になったから取れる よという問題じゃないよというところで、やはり本当にお散 歩したりとかが子どもたちができてないと取れるもんじゃな いから、その年齢になる前に本当にいっぱい歩いたりとか運 動したりとか、そういうことを今からたくさんしてあげてく ださいねというような、それがおむつを外すのにも繋がります よというような話はこの前ちょうどさせてもらったところ でした。もうお母さんたちの焦りも子どもに繋がるからとい うところで、もう焦らなくて、本当におおらかな気持ちで なかなかそこまで難しいとこなんですけど、そんな話もさせ てもらって本当に子育て支援のところで、そのような話もさ せてもらう機会を作ったりとかしてるんですけど、そこに来 てくださるお母さんはいいんですけどなかなか足を運んでも らえない。やはり今みたいにおむつを外れてないからあんまり 行きたくないなと思ってる方にどう支援ができるかなって いうところも課題なのかなということでもあるんですけども。</p>
大村委員長	<p>そういうところでやはり、何を言っても大丈夫というよう な、そういう会というか場というのはなかなか難しいですか。 保育園や幼稚園では。次、叱られるかもしれないってちょっ とね。なかなかこう出ていけないですよ。</p>
林委員	<p>そうですね。でも支援センターが市内にもなるんですけど、 やはりそこに来ちゃえば全然通えるようになるんですけど、そ こに行くまでの勇気というのはあるよというのをお聞きし て、こっちとしてはそこまで敷居が高くないつもりなんです けどやっぱり保護者側からすると、敷居が高いというところ があるのでそこを何とかというところは、これから課題かな と思って取り組まなきゃいけないなとは思ってます。</p>
事務局・酒井	<p>場はあるんだけどそこに今度は足を動かせるっていうとこ ろが、次の一手というか、一歩にも繋がっていくのかなとい うふうな感じでした。</p>
	<p><Cグループ協議></p>
事務局・大成	<p>お願いします。学校教育課の大成といいます。まず、みん なで育てるみよっ子～共育～を周知し、家庭を支えるため に学校地域ができることとは書いてあるんですけども。ま ずは春山委員どうですか。学校で困っている家庭とか、学校 は逆に支えなきゃいけないなと思っているようなそんな保護 者であったりとかそういったところはどうですか。</p>
春山副委員長	<p>はい。まず地域によって学校の家庭の様子が随分と違うな</p>

	<p>ということは思います。本校では、外国人児童生徒が大変多く、約1割が外国人児童生徒で、文化も何も違うということ。それから食文化も違いますし、学校のもの食べられない子もたくさんいるということで、中には給食を食べないという子とかも過去にはおりましたけれども。あと、おうちでもう日本に比べると多分、そこまで頑張って食べなくてもいいやという家庭もあるように感じていますので、今年度は昨年度から地域コーディネーターの方が本校に入っていたので、そういう方が、そういう家庭に家庭訪問をして、学校の給食はもう決まったものしか食べさせることができませんので、コーディネーターの方はその家庭に何が必要なんだろうということを聞きながら必要な支援をしていくことができるんですけども、ただ突然家に入るわけにもいかないものですから、学校がつなぎ役で、こういうことを困ってそうなので一緒に家庭訪問お願いできますかとか、そういうことで、随分と、昨年度から助けていただいているという現状があります。</p>
<p>事務局・大成</p>	<p>はい。ありがとうございます。外国籍が三好丘小学校だと1割ぐらいで、こういった文化の違いなどが、ちょっと今問題でその辺を地域コーディネーターさんというふうな話題が出たんですけども。黒笹学区だとちょっと状況が違うと思うんですけど、どんな家庭の支援とか、こんな支援があるといいなとかそういう保護者の立場としてどういうことが考えられますか。</p>
<p>松本委員</p>	<p>そうですね、黒笹小学校の場合は、外国人の方はもうほぼ私の知る限りいないのでちょっとそういった問題とかは特に出てはいないんですけども。共働きの家庭が多いのかなという印象を持っておりまして、私自身今年PTA会長を務めさせていただいてる中で、やはりもうそういう月に1回PTAの役員が集まって、取り組み活動の内容を共有したりとか、新たに子どもたちのためにやれる取組は何だろうという話をする中で、やはり皆さん、時間がなかなか限られていて、やはり大胆なことはどうしてもなかなかできないと。こういうことやりたいなというふうに思っていることがあっても、やはり自分の家庭もありますし、お仕事されてる方もいらっしゃる。私自身も仕事しながら今回、PTA会長をやっているというところもあってなかなか時間をかけてやるようなサポートだったりとかがなかなかできないという、結果が見えてる中で、困りごとをヒアリングしてしまうと、やはり期待されてしまうということもあって、なかなかそういう行動に踏み切れないという問題はあるのかなと感じております。一方で学校とPTAの関係という意味では非常に良い関係が築けているのかなというふうに思っておりまして、今年初めてPTAの取組をちょっとやっている中でちょっとわからないことばかりなんですけど、教頭先生や校長先生にも非常に支えていただいたりとか。あとはもともとそういうボランティア等を行っている保護者の方、OBの方とかにもサポートしていただいているので、そういった方々の支えもあって、PTA活動の中での困りごとについても相談をさしてもらいながらやれているということもあって、子どもたちの困っていることとか、声を聞く</p>

<p>事務局・大成</p>	<p>余裕というのはあるんじゃないかなというふうに感じてますので、これが結論になるかどうかわからないんですけど、今ここにいらっしゃる皆さんとかと、あとはそういう我々PTAと、学校の先生と、なかなかこういう時間がなくてこういう取組に参加できないの保護者の方をうまく繋いでいけるような、情報共有の場だったりとかがあると、みよし市がこういう活動してるんだということがわかるだけでも相談してみようという気持ちになったりとか、共働きでなかなか困ってて相談できる場所がないというところに対する、相談先、こういうところあるんだなというのを知るきっかけにもなるんじゃないかなというふうにちょっと感じてます。</p>
<p>近藤委員</p>	<p>そうですね。情報共有の場というのがすごく今聞いてて、大切なのかなと思ったし、例のキーワードになるのがやはり春山委員が言ったような地域コーディネーターさんの部分も、今聞いていて教頭先生が窓口となっていく部分も必要なのかなあと思ったんですけども。いろんな学校を見られている近藤委員、どうですかその辺は。</p> <p>僕もうちょっと広いところでいつも考えるんですよね。NHKで「いい移住」という番組があるんですけど、田舎の方に行くんですけどポイントは、子育てを地域でやる。多分、古い日本も子育てって地域がほとんど面倒見てたんですね。それで今、自分が教育委員でもあるんですが神社長の関係もしてて、この豊田みよしの全部の総代さんたちといつも会議あるんですけども。地域コミュニティがしっかりしてるころはお祭りがしっかりできるんですよね。だから山車と囃子があるところは、結構コミュニティがまとまりやすいです。半田でいくと僕、十年間半田に勤めてましたけど。これ全部地区に山車が38台ぐらいあるんですけど、子どもは小さいうちからお囃子に入って地域で育ててもらって、それから津具とか、向こうの方のいてたんですけども。向こうも花祭りがあるので、もう夜中までみんなで中学生なんか夜中の9時ぐらいから1時ぐらいまで花祭りの練習なんですよね。その週に大体花祭りの週に中間とか期末テストが入ってくるけど、優先は花祭りの練習なんです。そこの中で子どもたちってみんな地域で育っていくというのがあるんですけど、みよしが残念ながらその辺がみよしの上、下のお囃子の伝統もコロナで結構もう入ってくる子どもたちがなくてとか、お宮の役員をやるのがもう引き受け手がなくて困るって要するに、昔だったら自然に地域のお宮を中心にみんながまとまって、コミュニティを作ってたのが、残念ながら今ほとんどみよし市の全域で昔のそういう地域の教育力がなくなってるから、反対に文科省が協働本部作って、地域のコミュニティを復活させようと今、国がやってるんですけども。その上でどう復活し、みんなで子育てをしていくか地域のコミュニティをどう復活させるかっていうところでいかないと。残念ながら、コミュニティがものすごく大事だよというその概念が、もう日本中からなくなっているような気がするんですね。だから、本当はそういう地域の何かの行事に参加することで地域をみんなでやっていくっていう概念を作っていく。もう今から再構築していく時代に入ってしまったのかなというのが僕の基本的</p>

	<p>な考えなんですね。自分の仕事でいくと、カウンセリングの場合は心理カウンセリングと教育相談があるんですけども、教育相談のレベルってほとんど昔の井戸端会議でお母さんたちで共有してしまえばほとんど片づいていくものが共有されてないから、カウンセラーのところへその初歩的な子育てを聞きに来るんで、カウンセラーからこういう考えですよと言って安心するシステムになっちゃう。だから地域のコミュニティが復活すれば、かなりもっと良くなるような。だから、行政的にはどうやって地域のコミュニティを復活させるかというところが、メインで、そのあとにこういうのが乗っかってくる。今残念ながら、各区で区長さんとかあるけど、もう区長さんとかのレベルで、地域のコミュニティが復活ということはもう有り得ないなど、基本的に自分も区長やらさせてもらいましたけど。お宮の方も4年間役員やらせてもらったんですけど、もうその辺では何ともならないレベルにきてるなど。それとやっぱりもうちょっとみんなが共有認識するものと行政のレベルでどう復活させるかというレベルでやっていかないと。その辺にメスを入れながら、システムを今風にアレンジしてやっていかないと、このみんながみんな子どもを育てるという教育の部分には行かないような基本的な認識があって、じゃあそのあとどうするかというと、やはり、その辺の大事さを、何回も何回も組織を作って、訴えかけて、参加がしやすいシステムを作っていくより仕方がないし、小さいうちに子どもたちが地域のコミュニティで活動する体験を増やして、その子どもたちがまた大人になったときに、その地域に行くというので、そういうようなことをもうちょっと地道にやっていくより仕方がないのかなあと個人的には思っています。以上です。お返しします。</p>
事務局・大成	<p>ありがとうございます。なかなか地域のことは一朝一夕にすぐできるような感じもしませんが、今取り組みはじめて、三好中学校でコーディネーターやられてる富樫さんとかやってみてやはりちょっとこの辺は大変だなあとと思うところはあると思うんですけど。逆に、手応えというか、そういったところもありますかね。どうでしょうか。</p>
富樫委員	<p>今の近藤さんの話を聞いて、私もまさに今、これから頑張ってるってやっていかなきゃいけない問題だと思ってます。私は本当、近藤さんのように世間広くないんですが、三好中に限って、コーディネーターになって学校に入らせていただく機会が多くなって、もうちょっと前から開かれた学校という言葉が聞かれてたんですけど、なかなかいろんな事件があったりとかして、門が閉じてて、開かれた学校っていうのは、やれてくれてなかった。だから地域の人、学校に入りにくい学校は何となく勝手に入っちゃいけないところだっていう、そんな考えをもってる人がいっぱいいると思います。三好中でまず始めたのは何かというと、先生たちが一番困ってることを地域の人を力を借りてやろうということで、まず草刈です。それを始めた時に声かけたのが、いきいきクラブさんに、声かけて、三好中、学校区内でやっていただきました。そのあとでそういうことをやってるっていうことが、やはり伝わってたと見えて、トヨタ自動車の組合員の方でグループがいくつ</p>

<p>事務局・大成</p>	<p>かあったみたいでそのグループの方達から率先して、昨年の夏、お盆ぐらいに、60人ぐらい来ていただいて、草刈やってもらったりして、また今年度もまた地域に声かけてやっていただくそれがメイン。一応地域の人が入って行って。ただ、どうしても大人がやれることは、土日しかお仕事してみえる人とかはやれないので。そしてまた、先生たちに負担がかかったら意味がないので、どうしても土曜日か日曜日になってしまって、子どもたちと触れ合う機会が少ないのがちょっとない。ただ部活やってる子たちが、休憩時間に、ありがとうございますと声をかけてきてくれて、僕たちも手伝いますとやってくれたのが、すごく一つの交流にはなってるかなと思いました。あと、私が文化協会のことをやってるということで、三好中の生徒に外にも出てもらって、世の中の、おじいさんおばあさんたちがどんなことやってるいかという文化協会のイベントの春の文化展、去年の文化祭の芸能発表にお手伝いしてもらったんですけど、司会と受付と舞台係さんやってもらって、今年も20人ぐらい春のときに、ボランティア募集をかけたら20人の中学生が来てくれました。あとで、感想を先生にお聞きしたら、あんなにきらびやかな世界がみよしにもあったんだということを言ってました。それもまた一つの交流になったかなと。だから本当にできるところから少しずつ攻めてて、これをしたら正解というのはないので、与えられたところから私は今やってるところです。以上です。</p> <p>ありがとうございます。やはりできるところから地域の力を取り組んで高めていくというのが大切だなあというのを今聞いてると思うんですけど、一方では、今ともに育てるという感覚ですけどやはり不登校がかなり増えてきているなというのもある。そういった部分でも、ともに育てていくっていう感覚は必要だなあというふうには思っているんですけど自分としては、この前の報告にも、かなり増えていました。そういった部分でもやはり地域も家庭も、学校も関わっていくということはとても大切だなあというふうに思うんですけど、大地さんどうですか。社会教育っていうことから含めてどうでしょうか。</p>
<p>大地委員</p>	<p>別の観点からでもよいですかね。先ほど近藤さんとか富樫さんとかからお祭りの話があったんですけど、私最近、いい話が1個あって、何がいい話かという、うちの地区で、お祭りに関して、今までとちょっと組織を変えたんですね。今までお囃子を小学生だけがやってて、小学生でやったら終わりという仕組みだったんですけど組織を変えて、今度は年齢制限なしでお囃子に参加してくださいというので、中学生もOKとなった時に中学生が15人ぐらいきたということがあって、中学生が小学生に教えるとか、そういうことがやはりちょっと組織の見直しで生まれてきたというのがあったんですね。中学生よく来るなと私は思ったんですけど、中学生はやはり夏にお祭りがあり、夏に夜に集まれるっていうちょっと魅力的なこともあったりして、中学生ぐらいでもそういう心をもっているんだなということを再発見して、そういう機会があれば、そういう前向きな方向で参加してくる子たちもいる、というのがやはり、先ほど出てきた部活動の地域移行とかそ</p>

ういうところでも生かせるのではないかなと私はちょっと心の中で思っていて、子どもたちのいい面を信じてできるとか、そういう前向きな心をもってるんだなって。前向きな心をもっているのでもそういう機会をつくれば、生まれてくるんだなということを感じているので、富樫さんがおっしゃったように、何かできるところからちょっとずつそういう方向性を変えてやってみると、意外に子どもたちっていい力をもっていたりとか、新しい大人が既成観念で、中学生はそんなにこないでしょみたいに思ってるんじゃないって、出てくるんだなんてことが生まれてくるかなということを感じたので、いい話を聞けたなと思ってその時思ったんですけど、なので機会を作るとか、いい面を見つけ出してとか、もつてると信じて大人もやっていくということも必要なのかなということを感じました。ちょっと話はずれていくのですが、パンフレットいただいて3枚も入れていただいて作ってくださって、これどういうふうに配られたのかなということもちょっと私の中では疑問と、どうなんだろうって思うことがあって、学校で配ったんですね。今のところ。それで、どのような形でどのような経路で配られたのかなってということ、これが、例えば学校の教育の方向性とか、そういうことを考えたときに、すべてこれがついてということにもいかならないと思うことが、あるので、でもこれは活用してもらえるといいなということ考えたときに、保護者にとってこれが必要なものであるということになる方向を考えると、何が書いてあったら、これあってよかったなと思えるかなというところをもうちょっと入れていくといいかなというふうに思うんです。さっきの相談についても、不登校がすごい増えてるってこともあったんですけど、例えばうちの子にこんな兆しがあったら普通、親の心配ってやはり不登校とかいじめとか、学校に子どもを行かせるというときに心配なことは、いじめないんだろとか、不登校、どうなんだろうとかか思うので、やはり、そういう時に、こんな手だてがありますがこんな相談がありますということがわかりやすくなっていると、ちょっと親にヒントになるかなんてことも思いながら、どうやって配ったのかなとかどのぐらいの、これの威力があるものなのかどうなのかというところもちょっと参考になるなという考え方で見るとすごく参考になるんですけど、親にとって魅力的なものであって欲しいなと感じました。

事務局・大成

ありがとうございます。松本さん、これ見られましたか。お子さんがもってきたとき、どうですか。必要性とかそういったところ今話題になってきましたけど。

松本委員

そうですね。いいこと書いてあるなどは思って見ておりましたし、取組としても、すごく立派なことだなって言うふうに思うんですけど、おっしゃった通り、何かこう、うちの家庭に対して、どうフィードバックできるかという観点でいうと、まだ直接的に何かこうなんていうんですかね、これを利用しようとか、わかりやすい表現ではないのかもしれないなというふうにはちょっと思いました。こういうことが背景にあって、そういういろいろな地域とか市とかが支えてくれるといういろんなサービスができ上がっているのかなというふ

事務局・大成	<p>うには感じるんですけど。</p> <p>いじめとか、そういった話題への関心が強いんでしょうかね。どうでしょうか。</p>
松本委員	<p>そうですね。私自身そんなに不登校が悪いことだとは思っていません。子どもって個性があると思うので、学校になかなか行きづらい子とかは違う形でサポートしてあげれば、その子の将来に繋がるような育て方が多分できると思ったりもするので。要は、そういう時に学校が行きたくない理由みたいなところとか、あと家に居たい理由みたいなところを、別に学校側が何か悪いとかではなく、その子に合った教育みたいなことができるかというのかなというふうに思います。</p>
事務局・大成 春山副委員長	<p>春山校長先生、現場としてはどうですか。</p> <p>不登校は、今はもう、学校が学びの場のすべてじゃないよということで進んでいるので、家庭でも、また別の場所でも、フリースクールも今認めていこうということでやっております。学校に来れないからとにかく力をつけようねと。勉強だとか、得意なものを伸ばすとか力をつけようねと言っておりますが、担任としてはどうしても、学校に来て欲しいというところがあるもんですから、そこがなかなか苦しいところではあります。校長としては、その子は何が一番幸せかなと考えてやるんですけども、担任の先生の願いというものもありますから、現状はそんなところです。地域の方で、いろんな学ぶ場があるもんですから。それから、休みがちなおうちには地域の方が家を見に行ってくれるということもあって、去年からコミュニティスクールでも本当に支えられている感じがしています。</p>
事務局・大成	<p>コーディネーターさんが今学校に登校できない子のご家庭を見に行ってくれたりというような話題もありましたが、やはりそういった力が、各学校、地域によってちょっと一番困り感が違うというふうに出てたけども、地域コーディネーターさんの力が必要になってきているようになっていくということなのかなあというのは今聞いていて思いますね。</p>
近藤委員	<p>不登校を扱う時にいろんなパターンあるんですけども、僕は最初に基本的には不登校の子たちのベースは言葉が少ない。言葉がない。それが出るようになると大体学校行けるんですけど、まず、保護者とかなんかに学校へ行くメリットを伝えます。知識だけだったら家で学べるよって言って、フリースクールもあるし、タブレットの端末もあるし、ユーチューブで先生よりも上手に教えると、いっぱいYouTube見ればできるよって。ただ学校で学べるというのは、先生が話してる友達が話しているのを聞き取る力では、結構これ学ぶ力としては僕四つあるって学んでいう、①知識だけ②人から聞いて学ぶというのも結構大きいんですけども。それからもう一つは③自分が人に説明して、こうやる、自分が説明して相手にするとまたすごい力がある。それから④みんなで共同してもらうというこの四つのうち、三つは学校でしかできないよと。社会に出た時は知識の量は、今はAIもあるから、もうほとんどこれからの社会は大事じゃないから、あとの三つは、いやでも学校行かないと、共同の学習でないと成立しない力だよ。だから、近藤先生は保証するから100%保証するから頑張るって</p>

	<p>学校行くようにしようと。勉強を休んでもいいけど、この三つは学校でしか使わない。社会に出たらこの三つが一番大事な力だから、何とかしようというのが最初の契約を結ぶんですね。今のところ、僕は今まで100%学校へ復帰させてます。その辺が実はここに、協働の地域の協働の力が強いところは、やはり、そういう不登校になるというか要素が少ないと思うんですね。やはり自分で説明しなきゃいけないしみんなでやんなきゃいけないし。そうするとストレスとかなんかが入った時に、友達に相談したりなんかして、基本的には不登校までは至らないような気がするんで、いじめられれば何とかがいじめたから嫌だとかなんか言いながら、友達に言うとお前こうしないとかいうその共同の学びの場があるから、行けない。自分で言えない子はやはりどんどんいじめられていくという傾向があるので、そうやって考えていくと本当の学びの場とか地域のコミュニティがしっかり復活していかないと、これからの、だから行政は自然になくなっていったものをいかに今度そういうシステムを裏側で支えるシステムを作っていく、日本の文化の再生をしていかないと、やはり日本のあれがどんどん落ちていってしまうような気がするんです。だから、やはり、その辺をわかった上での行政的な支援方法を、やはり、これから系統的に作っていく時代にもう入っちゃってるなという感じがするんです僕は。</p>
事務局・大成	<p>ありがとうございました。</p>
大村委員長	<p>それでは時間が過ぎておりますので、まだまだ話し足りない雰囲気はありますけれども、今から各グループの内容ですね、それぞれご紹介いただきたいと思いますが、Aグループさんからよろしいですか。はい。お願いいたします。</p>
事務局・長谷川	<p><Aグループ発表> 失礼します。 グループではいろいろな意見が出たんですがちょっと出た順番とはちょっと違うように、お話させていただきます。ともいっていうことを周知するということのヒント、発信が大事だという話になったんですけども、発信の根拠となるところは、この子どもたちがみよし市が好きと言っているその根拠を足がかりに何が好きだから、みよし市がどこがいいのかどこが好きだからというところを、力を入れていくヒントにしていったらどうかなという意見が出ました。子どもだけが好きでは困るので、親もみよし市で子育てしたいと思うためには、どうしたらいいのかなというところで、学校としては、ホームページ、見てもらうことが大事で、わかりやすく簡潔にQ&Aとかを使いながらそれから話題もいろいろ考えながら、発信していく。それから、アプリはなかなか入れなきゃいけないというところがあるので、インスタとかSNSとかを上手に使いながらやっていくと良いのではないのか、特に悩みを抱える人については、外には出ていけないので、スマホで検索することで、いいヒントになっていくのじゃ</p>

ないか。それから、産科産婦人科とか、それから病院とか様々な施設に、みよし市の施設、こんなものがあります、公園があります、こういう施策しています、こんな体験ができますということやQRコードなどで、すぐに検索できるような取り組みも一つの手ではないのかなという話が出ました。それから、放課後デイサービスとのやっぱり情報共有というのは、すごく大事なところで、子どもたちを支える上には欠かすことができないというところを、改めて話し合いでわかったところでもあります。それから、個別の支援が必要な子や外国にルーツがある子がたくさんいるということで、その子たちにとってスポーツとか音楽はやっぱり共通で、話題になりやすいところやしやすいところでもあるので、子どもだけでなく、親も一緒に、それから高校生や大学生も教え合える、それからスポーツクラブの方にも支えていただきながら、教えてもらった子が次今度教える立場になってという形で、ともいけるというのではないかという話になりました。以上です。

大村委員長

ありがとうございました。それでは、続けてBグループさん、お願いいたします。

Bグループ発表

事務局・多治見

Bグループですけれども、まず家庭を支えていくということに対して、やはり、なかなかこう家庭に入っていく難しさというのが、学校、地域ともにあるんじゃないかなということで、その辺の難しさをまずは挙げていました。けども、例えばその地域とか関係機関から情報を得ることで、例えばいろんなそのコミュニティスクールとかの活動、南中学校でいうと梅ジュースなんかもそうなんですけども、そういったものを作るっていう作業をすることで、家庭にまた返していく、繋がりを持ったりとか、または、もしくは、保育園がなかなか、今地域との連携ができていない状況ってこともあるので、その作った梅ジュースを保育園に渡してみたりとか、そんなことをしながら、学校同士も繋がっていける方法を考えていければいいかなという話をしていました。また、読み聞かせという部分で、中学生がサンライブの方に職場体験に来てくれたりした時には、やっぱりいろんなわらべうたの練習をしたりとかしながら、お話し会のところでも役立つようなことをしてくれていた。そういったことで、子どもたちとともにボランティア、読み聞かせの方々も一緒になって読み聞かせをしていくようなもらうことばかりじゃなくて自分たちも与えていくような、そんなような子どもたちになっていくといいんじゃないかなという話も出ていました。また、ある小学校の取組なんですけども、ボランティアで読み聞かせをするというところで、給食のお昼の放送のところでもさせてもらったというところがありました。ここでの取組が、実は、子どもから家庭に繋がって、お母さんがその本を家でも読んであげたってというような繋がりができたということで、家庭を支えるきっかけにもなったってこともあるので、そういう読み聞かせの機会をたくさん作ってあげるってこともいいのかな。それを読書推進っていうのも大きなテーマで、家庭と学

校と地域が繋がっていけるような取組ができれば、もっといいんじゃないかなっていう話になりました。それから、幼稚園、保育園の保護者の立場からなんですけども、実際にやっぱり保育園、幼稚園の先生方が大変忙しそうにしていることがあって、なかなかそういう中で、相談したりとか、聞きづらさというのは実際にあるということでした。だけれどもやはり、聞きたいこととか相談したいことはあって、おうちの方々は入園までにこういうことしないといけないなとか、いろんな焦りを抱えながらいらっしゃるんじゃないかということでした。実際に保育園の方でも、そういう方々の思いを相談するような場所はあるんですけども、なかなか先ほどの、忙しいっていうところもあるんですが、なかなかそういう場に足を運んでもらうということがまずは難しいんじゃないかなということだったので、この方法を今後考えていくことが課題かなという話をしていました。以上です。

大村委員長

ありがとうございました。それではCグループさん、お願いいたします。

Cグループ発表

事務局・大成

はい。お願いします。Cグループでは、まず学校でどんな困り感があるのかということところを少し話題にしましたが、地域によって、困り感が違う。学校によっては外国籍の子が1割いるところもあって文化がかなり違う学校もあるし、逆に共働きの家庭が多くて、外国人生徒とかすごく少ない地域もあって、地域ごとによって困り感が結構違うなあと。ただ、地域コーディネーターというのがキーワードになっていて、やはりコーディネーターさんの役割が少し増してるなというのを、話し合いから感じ取れました。共働き世帯が多くなっていることもあって、学校との情報共有の場であったりとか、開かれた学校という意味でやっぱり地域とのコーディネーターさんを中心に組み込んでいくということが、今学校地域には求められているけども、そんな簡単には進まないかなという、じっくりじっくり進めていくってということがやはり地域の力になってくるんじゃないかというところで、話題になっています。三好中学校でもうすでに取り組んでいる内容としても、やはりできるところから、進めていくということが、効果がありそうだなというのを、お話を聞いていて思いました。

地域でのお祭りなどがしっかりできているコミュニティがあると不登校も多くないっていう、そういう地域の力が必要なのかというところは、今の話し合いの中の話題の中心で、組織を少し変えてみたら、地域のボランティアに参加する中学生の参加が増えた。やはりそういったところから子どもたちの前向きな心とか、そういったところを生かせるんじゃないかと。そうすることによって将来について繋がる、この部分が改善されていくんじゃないかなというのを感じました。地域の教育力が少し停滞している中ではやはり行政レベルでのコミュニティづくりとかそういったところの再構築も今考えていかないといけないかなってというのが話題になっています。パンフレット、周知についての部分ですけども、どうやっ

大村委員長

てこれを配ったかっていうことも話題になったんですけども、保護者としてもらった時に必要性を感じられるようなそんな話題のものが入っていると、さらにこの周知っていう部分が進んでいくんじゃないかなっていうのを話し合いの中から感じ取った部分であります。以上になります。

はい。ありがとうございました。非常に熱心なご協議が行われたということが伺われるご報告だったかというふうに思います。今、お話を聞いただけでも、それを、非常にたくさんの方が触れられましたので、私がそれをまとめるってことは、到底できませんので、一つ一つですね。記録の方司会の方が、ぜひそれを汲み取っていただいて、今後の計画に生かしていただきたいというふうに思います。私の方から少しコメントさせていただくとすると、今回その家庭を支えるということをキーワードに協議していただいたわけですが、やはり非常に難しいわけですね。難しいというか、当たり前と言えば当たり前なんですけれども、大変な思いをして子育てに向き合っている、そういったお父さんお母さんがいるわけで、そういう方たちはなかなか、その他の場には出てこないし、言ったら何言われるだろうかというふうに思うとなおさら足が遠のいてしまうと。そんな中で、一緒にやりましょうとかですね。一度来てくださいという、そういった声掛けももちろんしていただくことはとても大事なんですけども、それはなかなか進まないということもあるかと思えます。ですから先ほど話であった、例えばAグループがその発信が大事で、どういう発信がいいだろうかっていうこととか、それからBグループのお話でその足を踏み出すために何が必要かとか、それからCグループのですね。じっくり進めることが地域の力になっていくんだという、そういったことが、やっぱ共通して、私たちは考えていきたいというふうに思うわけです。同時にこうしたその困りごとっていうのは、何も子育てだけではないわけで、それこそ貧困であるとか、発達障がい、障がいの問題であったり、或いはそのケアラーの問題であったりもするわけで、そこに福祉とか医療の分野とどう結びつかかということも大事な課題で、ぜひこの教育に関わる計画ですけれども、しかしそれは、その医療とか特に福祉ですかね。もちろん地域づくりでいくと、もっと他の部署とも繋がっていくと思いますけども、みよし市全体で、そうした家庭の困りごとを抱えている家庭をどう支えていくのかということですね。ぜひその教育の立場から発信していただくと良いのではないかなというふうに思います。SDGsのスローガンの中で、一人も取り残さないということが今言われていて、とてもいい言葉だけどとても難しいことですよ。でも、それがスローガンになっているということが、これは私たちの力になっていくと思うので、教育の分野で、ぜひこれを市全体の問題として考えてくださってことを投げかけていただきたいですし、その中で、今、コミュニティスクール、地域学校協働という形で、学区の中に、そうした安心して足を向けられる居場所ができるかもしれないと、そういった計画が今進んでいるわけですので、それはその子どもだけではなく、もちろん子ども、不登校の問題もありますから、子どもが行き

	<p>たくなるような場所をどうやって作るかっていうこともあるんですが、その保護者であったり、或いはその地域の人達が気軽に行ける、安心していける、そして、そこでおしゃべりをして、力を合わせて何かできるかもしれないと、そんな期待というか、希望がもてる地域、そうした場所、それを学校を中心に、ぜひ考えていただければと思います。まとめませんが、いろんなご意見をいただいたということ、ぜひ力にしていて、この今年度を最後には、最初にもお話があったように、次の計画を立てるそれに繋がる、協議をまたすることになるかと思しますので、ぜひ皆さんも、今皆さんが掲げている現場といいますか、その場所でぜひこうなったらいいんじゃないかということ、1年間、温めていただいて、また次の機会にご意見をお聞きできればというふうに思います。</p> <p>今日は繰り返しになりますが非常にご熱心なご協議、本当にありがとうございました。それでは以上をもちまして、と協議事項は終わったかと思しますので、進行を事務局にお返しいたします。</p>
<p>新美教育部参事 事務局・多治見</p>	<p>ありがとうございました。今後の予定等について、事務局から説明させていただきます。</p> <p>事務局説明 ・今後の日程</p>
<p>新美教育部参事</p>	<p>以上をもちまして、第1回みよし市教育振興基本計画推進委員会後、終了させていただきます。交通安全に気をつけてお帰りください。本日はありがとうございました。</p>